

自己点検評価活動及び教育 DX 推進基本計画に関する報告書  
(外部評価受審用)

2023年9月15日

東洋大学大学評価統括本部  
東洋大学デジタル活用推進委員会

## 目次

はじめに.....	2
第1章 自己点検評価活動（中長期計画の推進を含む）について.....	4
(1) 中期計画と連動した効率的なPDCAサイクルを目指す運営について.....	4
(2) 3ポリシーを起点としたPDCAサイクルの検証について（3ポリシーの検証を含む） .....	12
第2章 教育DX推進基本計画について.....	17
(1) 計画策定の経緯と計画の概要について.....	17
(2) 教育DX推進基本計画1「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」について.....	20
(3) 教育DX推進基本計画2「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」について.....	40
(4) 教育DX推進基本計画3～5について.....	43
まとめ.....	45

## はじめに

このたびは、東洋大学の教育活動に係る外部評価について、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

教育 DX 推進基本計画及び自己点検評価活動に関する外部評価の受審にあたり、ご挨拶と併せて、関係する取り組みについて、本学の状況等をご説明いたします。

2020年の年明けから始まった新型コロナウイルス感染症に係る対応は、ご承知のとおり、日本のみならず世界全域に多大な影響を与えました。経済的な影響をはじめとても深刻なものとなりましたが、私たち教育機関にとっても例外ではなく、将来を担う子供たちへの影響はもちろん、高等教育における学習や学生たちの人生設計の重要な時期における影響は多大なものであったと想像しております。

およそ3年間にわたって行動制限等の異例の期間があったわけですが、私たち東洋大学では2020年3月には、法人と教学の垣根を越えた組織として、新型コロナウイルス対策委員会を立ち上げ、現在に至るまで、大規模大学であってもクラスターを発生させない教育環境の維持に尽力いたしました。さらに、同年6月には、学内有識者会議として、「遠隔授業の高度化と質保証に係る将来構想検討会議」を立ち上げ、アフターコロナにおける教育モデルの早期検討に着手し、教育の質の向上を目指した方向性や施策を学内に提言しました。その後、同提言をもとに、「教育 DX 推進基本計画」として5つの計画を策定した次第です。

「教育 DX 推進基本計画」のうち計画1「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」は、「文部科学省大学改革推進等補助金『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」の採択を受けました。同計画は、学生に対する情報提供の効率的な運営、さらに学生の学びの旅(Learning Journey)の羅針盤となるスマートフォンアプリを開発し、学生自身の自己省察の機会を生んだり、成長機会への気づきを与えたりする取り組みを計画し、コロナ禍の不安を少しでも取り除くとともに、成績や修得単位数のみに集中しがちな傾向から、多様な学生の成長機会を学生本位で掴んでいくことを大切にすよう、さまざまな取り組みを行ってまいりました。

現在は、データ利活用フェーズへと移行し、学生から得られた情報をもとに、学内のリソースの最適化、学生支援力の向上につながる取り組みに繋げ、学内の教職員の有機的な連携を生み出すものとして進化させております。

一方、コロナ渦を通じて経験した教育方法の柔軟性を踏まえ、オンライン教育のみならず、対面授業の価値向上について、東洋大学としての新たな教育モデルを確立すよう、計画2「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」を策定し、移動時間や場所の制限を受けずに、キャンパス横断的な履修を可能にしたり、反転授業に代表される事前学習時間の向上や学生にとって理解しやすい、または学習意欲が向上しやすい授業方法に取り組む計画を策定いたしました。現在、2025年4月から施行する新カリキュラムの改訂に向けて、全学を挙げて取り組んでいる次第です。

こうした経緯や背景を踏まえ、2024年4月からスタートする教学の新中長期計画では、創立150周年に向けた改革として、「未来を哲学する、東洋大学」という大きなビジョンのもと、「3

万人の LearningJourney を支える新しい教育の姿（かたち）の創造」「多様な学生の課外活動及びキャリア形成への支援」「SGU×SDG s による国際教育の推進」など、これからの東洋大学の教育研究力の向上にむけた 10 年構想（2024-2033）を描く基本方針を全学に示しております。

なお、2023 年度は計画策定期間として位置づけておりますが、毎年のローリングや自己点検・評価、教育課程の編成や運営、教育内容等の改善活動などの 3 ポリシーを起点とした PDCA サイクルを一体的、かつ効率的に進める運用にも着手しております。

これら一連の活動について、私たち東洋大学では、学生を主体に中心に据えて、大学全体で教員と職員の連携のもとで進めている状況にあります。

つきましては、有識者の皆様におかれましては、ご多忙の折大変恐縮ではありますが、本学のいっそうの発展のために、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2023 年 9 月

東洋大学

大学評価統括本部本部長

デジタル活用推進委員会委員長

学長 矢口 悦子

## 第1章 自己点検評価活動（中長期計画の推進を含む）について

### （1）中期計画と連動した効率的なPDCAサイクルを目指す運営について

#### ■教学における新たな中期長計画の方向性

2022年12月に開催した「学長フォーラム」において、本学の創立150周年を見据えた教学における中長期計画（2024年度から2033年度まで）に係る基本方針について、矢口悦子学長より、次のとおり示されている。

「未来を哲学する、東洋大学」

哲学し、科学する力が地球社会の未来をつくる。

ダイバーシティが連携を生み、協働が改革を支える。

- 東洋大学の哲学とは、物事の本質に迫って深く探求し、考察を重ねることであり、諸学の基礎である。この基礎の上に、地球社会のあらゆる課題に取り組む科学として学問研究が成り立つ。科学する力を身につけ、実践することで、東洋大学は、未来づくりに貢献する。
- 東洋大学の特徴は、多様性を有していることにある。多様性は困難な状況や課題を克服するための必要条件となる。違いを超えて連携し、協働し、改革を続けることで、伝統を未来に繋ぐことができる。

上記の考え方のもと、創立150周年を見据えた東洋大学の未来を創るために、以下の6つの具体的な基本方針と目標を掲げた。

基本方針	目標
1 3万人のLearning Journeyを支える 新しい教育の姿（かたち）の創造	学生一人一人が物事の本質に迫って深く考察し、 哲学する学びの旅を続ける力をつける。
2 多様な学生の課外活動及び キャリア形成への支援	多様な個性を活かしてキャリアを展望し、 柔軟に社会で活躍できる学生を育成する。
3 SGU×SDGsによる国際教育の推進	SGUで培った知識・経験を基に、SDGsをはじめと した国際的な課題の解決に参画できる学生を育てる。
4 ブランドとなりうる 連携・共同研究を促進	研究により新しい価値を生み出し、社会的課題解決 に貢献することで、東洋大学のブランド力を高める。
5 特色あるリカレント教育の推進と 社会貢献活動の拡大	職業や人生キャリアを豊かにするために、多様な方法で 学ぶことができる東洋大学リカレント教育モデルを創る。
6 多様な教員組織の拡充と 教職協働の強化	総合大学としての多様性を強みとして、教職協働により 人類の幸福のために奮闘する東洋大学の伝統を堅持する。

出典：2022年度学長フォーラム 矢口悦子学長講演資料(2022.12.17)

新中長期計画においては、6つの方針と目標に即した具体的な方策を示している。

IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策		計画策定者 情報提供・並走者
<b>3万人のLearning Journeyを支える 新しい教育の姿（かたち）の創造</b>		<b>学生一人一人が本質に迫って深く考察し、 哲学する学びの旅を続ける力をつける。</b>
具体的方策	1 大人数教育から少人数教育による対話型、議論型教育へ転換	学部・学科 高等教育推進センター
	2 全学基盤科目と全学共通科目による総合知の育成	全学カリキュラム委員会 学長室 学部・学科 高等教育推進センター
	3 単位制度の改正（大学設置基準 § 21）による、科目の見直し	学部・学科 学長室 学部長会議 全学カリキュラム委員会
	4 学修成果指標の活用による教育内容の高度化と学生一人ひとりへの学習支援体制の強化	学部・学科 高等教育推進センター 全学学務推進課 教育DX推進委員会
	5 教育DX推進基本計画に描いたオン・オフキャンパスを活用した教育	学部・学科 大学院 教育DX推進委員会 高等教育推進センター 全学学務によるSWG等
	6 資格取得プログラムにおける学外実習等の充実	該当学部・学科 教職センター 全学カリキュラム委員会 全学学務推進課
	7 学部と大学院との連携・接続の強化	学部・学科 大学院 高等教育推進センター 全学カリキュラム委員会 全学学務推進課 <sup>31</sup>

IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策		計画策定者 情報提供・並走者
<b>2 多様な学生の課外活動及び キャリア形成への支援</b>		<b>多様な個性を活かしてキャリアを展望し、 柔軟に社会で活躍できる学生を育成する。</b>
具体的方策	1 正課及びキャリア形成としてのインターンシップの充実	学部・学科 大学院 就職・キャリア支援部 学長室
	2 アスリートへのサポートと学習支援の充実	学部・学科 ラーニング・リソースセンター TOYOビル・ビル（予定） 学生部
	3 学生一人ひとりのキャリア形成を学部学科のポリシーとの関係で明確に位置づけて支援	学部・学科 就職・キャリア支援部 高等教育推進センター
	4 学生の海外研修・異文化交流や留学への支援	国際教育センター 学部・学科
	5 留学生の就職支援の拡充	就職・キャリア支援部 国際教育センター 学部・学科
	6 障がいのある学生に対する合理的配慮	学部・学科 大学院 学生部
	7 隠されたジェンダーバイアスや差別を排除	学部・学科 大学院 学生部 SDGs推進センター

#### IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

計画策定者  
情報提供・並走者

### 3 SGU×SDGsによる国際教育の推進

SGUで培った知識・経験を基に、SDGsをはじめとした国際的な課題の解決に参画できる学生を育てる。

具体的方策

- NEXT SGU :**  
全学的な共通項目と学部学科ごとの特徴ある取り組みとの関係を整理し、学部学科等が主体的に推進  
学部・学科 大学院 国際教育センター
- SGUで構築した基礎をSDGs等の取り組みへと展開  
学部・学科 大学院 SDGs推進センター
- SDGsアンバサダー及びSDGs留学生アンバサダーの活動支援  
学部・学科 社会貢献センター 国際教育センター SDGs推進センター 学生部
- SDGsへの取り組みを学部・学科等において可視化  
学部・学科 広報課
- SDGsに関する研究や国際的なイベント、学会、コンペへの学生の参加を促進  
大学院 学部・学科 重点研究プロジェクト 大学院教務課 学術研究推進センター 各研究所・センター
- SDGsにかかわるテーマの学習機会として海外研修を設計  
学部・学科 国際教育センター

40

#### IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

計画策定者  
情報提供・並走者

### 4 ブランドとなりうる 連携・共同研究を促進

研究により新しい価値を生み出し、社会的課題解決に貢献することで、東洋大学のブランド力を高める。

具体的方策

- SDGs等の諸課題の解決に向けた研究の展開  
教員 研究所等 学術研究推進センター SDGs推進センター
- 領域横断型の重点研究の強化によるブランド化及び自走化の促進  
重点研究プロジェクト 学術研究推進センター 産官学連携推進センター 井上円了哲学センター
- 外部資金の獲得に向けた共同研究や国際共著論文執筆の支援  
研究推進部 教員 学長室
- 科研費等の獲得率上昇を目指し、各キャンパスにURAを置き、全学のみならず学部・学科等による戦略的支援の促進  
研究推進部 産官学連携推進センター 学部・学科 学術研究推進センター
- 日本語による優秀論文を外国誌へ投稿（翻訳等）する支援の強化  
研究推進部 教員 学術研究推進センター 各研究所・センター
- 産官学連携による研究拠点の形成と補助金獲得の支援  
産官学連携推進センター 研究推進部
- JSTの戦略的補助金の確保と研究に関与する院生・学部生を増やすことによるシーズの育成  
大学院 学部・学科 研究推進部 学術研究推進センター

41

#### IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

計画策定者  
情報提供・並走者

### 5 特色あるリカレント教育の推進と 社会貢献活動の拡大

職業や人生キャリアを豊かにするために、多様な方法で学ぶことができる東洋大学リカレント教育モデルを創る。

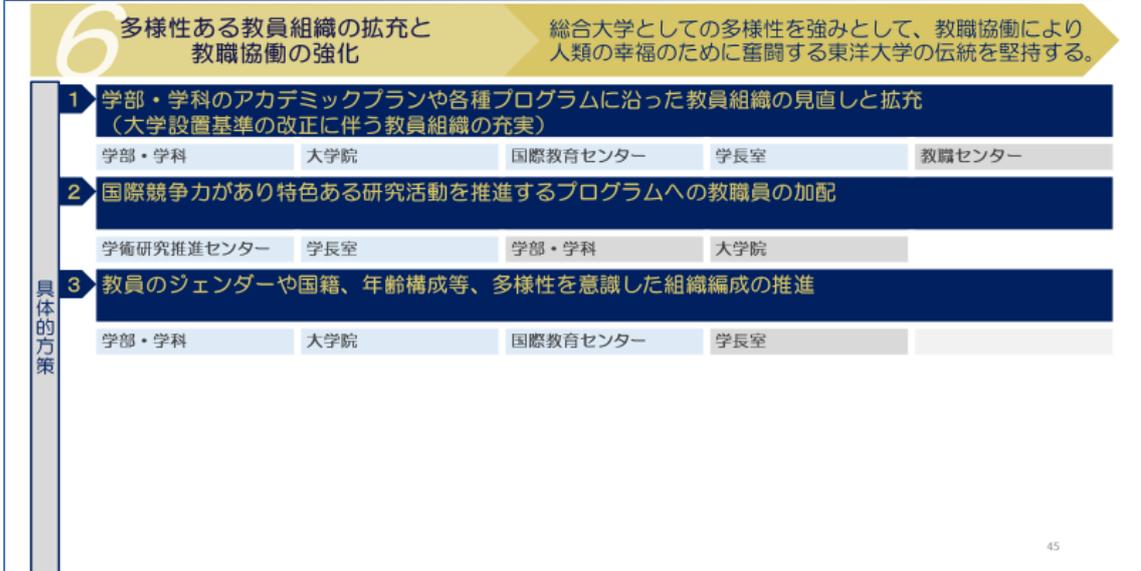
具体的方策

- 東洋大学リカレント教育モデル構築を目指し、学部、大学院、機構・研究所、社会貢献センターそれぞれにおけるリカレント教育を体系的に整備  
学部・学科 大学院 学術実業連携機構 社会貢献センター 教育DX推進委員会 学長室
- 高度専門職人材等の養成を目指し、社会人のためのコースを拡充  
該当する学部・学科 大学院 高等教育推進センター 学長室
- 21世紀型リカレント教育として特徴を有するプログラムについては、人的・資金的な支援の強化  
該当する学部・学科 学術実業連携機構 大学院 社会貢献センター 高等教育推進センター 学長室
- リカレント教育や社会貢献活動としての生涯学習講座、講師派遣事業への教員の参加を促進  
学長室 学部・学科 大学院 社会貢献センター
- 卒業生や海外協定校の協力を得たリカレント教育の世界展開  
社会貢献センター 教員 国際教育センター 社会連携推進室 校友会

43

## IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

計画策定者  
情報提供・並走者



上記の具体的方策を踏まえ、学部及び研究科、全学的な委員会組織、センター等のそれぞれが、教育研究活動をはじめとする諸活動の活性化につなげる計画を策定し、全学が一体となって推進していくことを前提としている。

また、学部・研究科と全学的な組織・センター等との組織間の連携による東洋大学全体の改革となるように取り組んでいくことを前提としており、計画の推進に係る教員と職員との相互の連携、協働により、本学の教育改革力をいっそう際立たせることを重視している。

そのため、部署間を超えた横断的なワーキングの形成、教職員合同での検討会の発足など、各所においてあらゆる連携がなされることが学長の方針が明示されており、認められている。

期間の考え方については、中期計画（前期）を2024～2028年度、中期計画（後期）を2029～2033年度としており、2023年度は次期の中期計画（前期）の策定期間として位置付けている。

計画の策定単位については、学部においては、原則、3つのポリシーの策定単位である学科ごとに計画を策定することとし（専攻を置く組織は専攻単位の策定が可能）、学科横断的な計画として学部共通化することも可能としている（研究科も同様）。研究科は同じく専攻ごとに、大学院改革実施タスクフォース（大学院活性化プロジェクト）とのつながりを踏まえながら策定することとしている。

なお、カリキュラムの充実及び質の向上の観点から、2025カリキュラム改訂につなげる取り組みを重視しており、方針1「3万人の Learning Journey を支える新しい教育の姿（かたち）の創造」には、第2章で触れる「教育DX推進基本計画」の計画2「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」の内容を踏まえ、さらに東洋大学の総

合大学としてのメリットを生かした全学横断的な教育モデル（総合知の育成）の構築に取り組むこととしており、コロナ禍の経験を活かした ICT の積極的な活用、教育効果の高いオンライン教育の実践につながる具体的方策を示している。

(総合知教育の編成に係る考え方<イメージ>)

IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

## 新しい教育の姿 (かたち)を創る、 カリキュラムの進化

本学ならではの進化モデルを考える



**総合知の獲得**

東洋の伝統、  
総合大学の価値を  
いっそう際立たせる  
次世代の人財養成  
カリキュラムへ



**ICTの積極活用**

オンキャンパス・オフ  
キャンパスを効果的に  
使いわける



**少人数教育へ**

専門科目へ  
リソース集中



**運営の効率化**

段階的にコース数の  
適正化を図る

IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

## 総合知を獲得する、カリキュラムポリシー イメージ (案)

基盤教育は、  
全学共有化する。



他学部開放科目も  
全学共有化する。



専門教育は  
少人数科目をふやす。



#### IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

### 新たな**基盤教育**と他学部開放科目の姿

#### 次世代に向けた 教育課程の充実

〈自校教育、哲学教育、データサイエンス、  
インターンシップ、日本語教育科目、  
初習外国語科目〉

#### 全学基盤科目

#### 総合知に向かう編成

〈他学部に開放してもよい科目を選ぶので  
はなく、選択科目の中から他分野との融合  
により価値の高まる科目を編成する〉

#### 全学共通科目

#### 学部の垣根がない、 学生同士の融合

〈学生は他キャンパスで  
受講してもよい〉

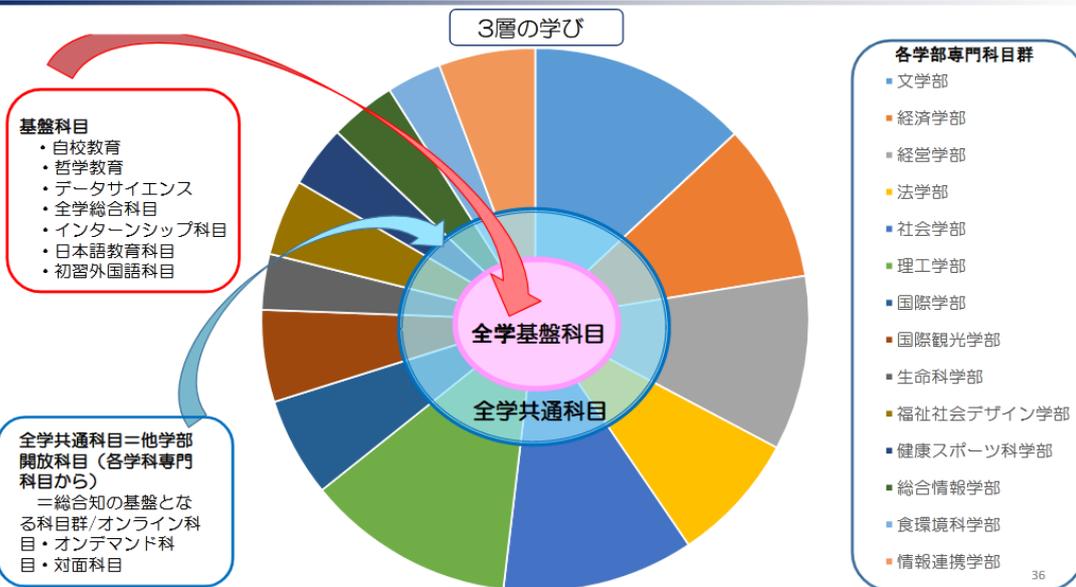
#### ICTの活用

〈オンライン科目と対面科目  
の精選〉

#### 専門科目との融合

〈教育効果の高まりを生む〉

#### IV. 教学による中長期計画策定に向けた具体的方策

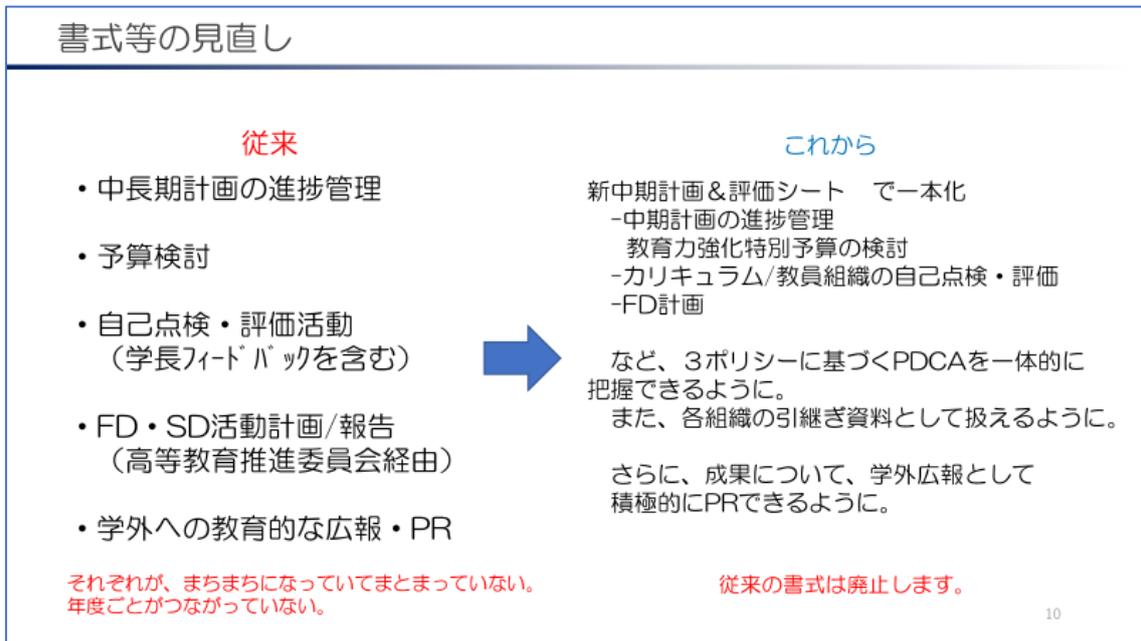


## ■効率的な PDCA サイクル

本学では、原則、学部は学科、研究科は専攻単位で3ポリシーを策定し、カリキュラムを編成・運営することとしている。

従来、3つのポリシーに基づくPDCAサイクルを循環させるうえで、学部等の中長期計画など計画(P)とカリキュラムの運営(D)、予算検討や自己点検・評価活動(C)、FD活動やカリキュラム改訂(A)といったサイクルが必ずしも一体的に運営されやすくなっておらず、書式や確認の機会もバラバラとなっていた。

今後のPDCAサイクルにおいては、以下の考えをもとに、書式等を改め、「中長期計画進捗管理シート」として、中長期計画書、自己点検・評価報告書、FD計画書、教育力強化特別予算(学長施策予算)の計画書を一体的に合わせて管理することとした。



同シートにより、従来よりも記述内容が大幅に削減され、要点のみを把握する運営方法となり、業務進捗管理のしやすさを向上させるものとなった。

なお、記述内容では補えないものに対して、学長の下で教学の全組織を対象とした学長ヒアリングを年3回(予算ヒアリング、人事ヒアリング、中期計画等のローリングや進捗状況を把握するヒアリング)を実施しており、学長と各組織の長の重要なコミュニケーションの機会となっている。

また、学内アクセス限定の中長期計画ポータルサイトを設置しており、進捗状況の把握や他の組織の計画内容を共有しあう仕組みを構築している。

これらの運営方式を採用し、効率的なPDCAサイクルを実現することとしている。

(中長期計画進捗管理シート)

※すべての項目が Google スプレッドシートでワンシートで全学共有可能となっている。



## (2) 3ポリシーを起点としたPDCAサイクルの検証について（3ポリシーの検証を含む）

本学は、原則として、教育課程の編成単位ごとに3ポリシーを策定することとしており、学部では各学科（学科の下に専攻を置く場合は専攻）、大学院研究科では各専攻の課程ごとに3ポリシーを定めている。

ディプロマ・ポリシーをはじめとする3ポリシーを起点としたPDCAサイクルを実現するため、「ディプロマ・ポリシーの改訂方針」などの方針に基づいて3ポリシーを策定している。また、当該学部・学科、研究科・専攻等が授与する学位に即した3ポリシーを策定しており、学部及び研究科ともにそれぞれ、学部規程及び研究科規程に規定し、大学ホームページで公表している。

各ポリシーの改訂方針は、2016年に文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会が策定した「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」を踏まえながら、本学の「建学の精神」を各学部の教育活動に繋げていくよう導くものである。また、一連の手引きは、高等教育推進センターの下で作成し、教授会や学部内の委員会等に職員等が出向き、方針が行き届くように説明会を開催するなど、3ポリシーの見直しに際し、学部と協働して全学的に取り組んでいる。

このように、全学部がディプロマ・ポリシーの検証と改訂に取り組んでおり、従来までのディプロマ・ポリシーにおいて示されていた学習成果をより明確化し、2021年度カリキュラムが施行され、現在3年目を迎えている。

### 「ディプロマ・ポリシーの改訂方針」

ディプロマ・ポリシーは、大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針として、学生の学修成果の目標となるよう、策定する必要があります。改訂にあたっては、以下の方針を踏まえてください。

(ア) 全学的教育目標「東洋大学スタンダード 2021」に示した東洋大学生として身につける力を踏まえながら、各学問分野の特性を十分に考慮し、学生が身につけるべき資質・能力など、「何ができるようになるか」を明らかにするよう、学修成果の測定が可能な表現にする。また、「人材養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」の見直しと一体的に進める。

(イ) 国際通用性及び高大接続の観点を踏まえ、学士力答申で求めている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」に即して幅広い能力を修得できるように示す。

(ウ) 日本学術会議が策定する「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」を活用し、合致する分野や隣接する分野の参照基準の内容を適宜取り入れ、学問分野に即した能力及び学びを通じて高めることのできる一般的、汎用的な能力を表現する。

### 「カリキュラム・ポリシーの改訂方針」

カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を

編成し、どのような教育内容・方法を実施するかを定める基本の方針として示すことが必要です。改訂にあたっては、以下の方針を踏まえてください。

(ア) ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の目標を達成するために、どのようなカリキュラム（教育課程）を編成するのか、順次性を考慮して、各学修段階でどのような能力を獲得する科目を配置するかについて示す。また、専門教育及び基盤教育において連携して教育がされることを踏まえ、カリキュラムの体系性を考慮して示す。

(イ) 学生の主体的な学びを促進することを踏まえ、どのような教育内容・方法を取り入れるのか、具体的に示す。

#### 「アドミッション・ポリシーの改訂方針」

アドミッション・ポリシーは、大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本の方針として示すことが必要です。改訂にあたっては、以下の方針を踏まえてください。

(ア) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学前にどのような能力を身につけた学生を求めているか、また「何をどの程度学んできてほしいのか」について、重要な教科などを示しながら、具体的に記載する。

(イ) 高等学校段階までの学力の3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を踏まえて、ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の獲得に繋がる、入学段階に求める能力を示す。

(ウ) 入試方法を記載する際は、入学後の教育との関連を十分に踏まえる。

上記の方針を踏まえ、各学科等のディプロマ・ポリシーを策定すること、入試結果や成績状況、学習成果測定指標の測定結果等を検証し、3ポリシーの明確化、高水準化を図ることとしている。

また、「ディプロマ・ポリシーの改訂方針」に示されている「東洋大学スタンダード 2021」は、本学の「建学の精神」をはじめ、学校法人東洋大学ビジョン「Beyond 2020」のキーコンセプト、従来の基盤教育カリキュラム「東洋大学スタンダード」の7つの目標、文部科学省中央審議会「学士課程教育の構築に向けて」に示された「学士力に関する主な内容」を包括する形で、全学的教育目標として、東洋大学生が身につけるべき力を明確に打ち出している。

#### 「東洋大学スタンダード 2021」

東洋大学は、建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」に基づき、学生に以下の力を身につけさせることを宣言します。

1. 「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力
2. 「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動で

きる力

3. 「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力
4. 変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力
5. グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力

これらの3ポリシーの改訂方針、「東洋大学スタンダード2021」は、2025年度カリキュラム改訂においても踏襲され、運用される予定である。

一方、大学院研究科においては、2019年11月に開催した大学院研究科長会議における大学院改革実施タスクフォースの下、学部版の3ポリシーの改訂方針や手引きに準拠して、学習成果測定の指標開発と3ポリシーの改訂について取り組んでいる。

#### ■学生ひとりひとりの成長を約束する内部質保証体制

本学では、以下の方針をもとに、全学的なPDCAサイクルの運営をしている。

##### 「内部質保証を推進するための基本的な考え方」

1. 本学の建学の精神、目的及び各学部・研究科が掲げる教育目標等並びに諸活動の方針の実現に向け、教育研究をはじめとする大学の諸活動並びに組織及び運営について、自主的かつ自律的に自己点検・評価を行い、教学マネジメントのもとで、教育研究水準の向上に資する改革を推進する。
2. 全学における内部質保証の推進を担う組織（全学的内部質保証推進組織）は、大学評価統括本部とし、その下に学部及び研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会を統括する全学自己点検・評価活動推進委員会（以下、全学委員会）、その他の諸委員会、各部署の自己点検・評価体制との連携を図り、全学的な観点に基づき、必要な連絡調整及び提言（フィードバック）を行い、教育研究及び諸活動の企画、運営、検証、改善・向上の一連のプロセスの一層の充実を図る。
3. 自己点検・評価活動の実施にあたっては、自己点検・評価活動の客観性及び妥当性を高めるため、外部評価を行うよう努める。
4. 自己点検・評価活動をはじめとする内部質保証推進の状況について、社会的公表を行う。
5. 教育の質保証について、組織内の意識の醸成と涵養を図るとともに、学生の成長及び教育研究力の向上に資するよう、教職協働のもとで、学内の有機的な連携関係を形成する。

##### 「内部質保証を推進するための組織の権限・役割等」

1. 全学的内部質保証推進組織である大学評価統括本部の下に、学部・研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会を統括する全学委員会を置き、全学委員会の下に学部・研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会を組織し、自己点検・評価活動を推進する。

2. 学部・研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会は、教育目標、「卒業の認定及び学位授与に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」に基づく教育活動について自己点検・評価活動を組織的にを行い、その結果を全学委員会に報告する。
3. 全学委員会は、学部・研究科ごとの自己点検・評価の状況について相互評価（ピアレビュー）を行うとともに、大学評価統括本部に自己点検・評価結果を報告する。
4. その他の諸委員会及び各部局は、大学評価統括本部の下で、自己点検・評価活動を行い、その結果を大学評価統括本部へ報告する。
5. 大学評価統括本部は、全学的な観点に基づき、自己点検・評価活動を行った組織等に対して、提言（フィードバック）を行い、改善活動を促進する。また、学部及び研究科の自己点検・評価活動については、教学の自主的、自律的な内部質保証を推進する観点から、全学委員会から提言（フィードバック）を行うことを可能とする。

#### 「内部質保証を推進するための手続き・運用」

1. 全学的内部質保証推進組織である大学評価統括本部の業務、権限、その他運営に関しては、「東洋大学大学評価統括本部規程」に定める。
2. 学部・研究科ごとの自己点検・評価活動、その活動を統括する全学委員会の業務、権限、その他運営に関しては、「東洋大学自己点検・評価活動推進に関する規程」に定める。
3. その他の諸委員会及び各部局における自己点検・評価活動については、大学評価統括本部の下に、各部局と連絡調整を図り、相互評価を行うことを目的とした部会を設け、各組織の協力のもとに進める。
4. 評価基準については、大学設置基準及び大学院設置基準並びに大学基準協会が掲げる大学基準に基づく点検・評価項目等を考慮する。
5. 内部質保証推進体制については、関係組織と連携しながら、継続的、組織的に検証・改善を行い、最適化を図る。

上記の方針等については、2019年10月に、学部長会議、大学院研究科長会議、事務局部長会議で協議のうえ策定している。また、同方針等を『自己点検・評価活動の手引き』に収録するとともに、大学ホームページに公表し、共有を図っている。

本学の内部質保証体制は、内部質保証に関する全学的方針等に示しているとおり、大学評価統括本部を本学の内部質保証推進組織として位置付けている。

また、次頁に記載した「学生一人ひとりの成長を約束する内部質保証体系図」に示すとおり、学部・研究科、その他の諸委員会、大学運営・財務等の法人事務局の自己点検・評価活動の結果は、大学評価統括本部に集約され、教学と法人が一体となった体制により、必要な改善に向けた提言等がなされる仕組みを構築している。



## 第2章 教育DX推進基本計画について

### (1) 計画策定の経緯と計画の概要について

#### ■コロナ禍以降の将来構想を考える

2020年度春学期以降、新型コロナウイルス感染症との闘いに象徴された大学運営が余儀なくされた。

学生、教職員、地域を感染から守りながら、教育研究活動を止めないために、教職員一人ひとりが知恵を出し合い、考えて行動してきた。

必ずしも全ての対策が最善であったとはいえないものの、教員は教員としての役割にいつそう力を注ぎ、職員は職員としての役割に誇りを持ち、学生は学生としての主体的な学びを深めるためには、何が必要であるかを考える機会となったと言える。また、コロナ対策・対応を通じて、大学の在り方そのものに対する本質的な問いをもたらす大きな契機となったことは記憶に新しい。

コロナ対策の開始から間もない2020年6月12日に開催された学部長会議において、学長（矢口悦子）より、全学部長らに対し、「遠隔授業の高度化と質保証にかかわる将来構想検討会議の設置について」を示した。その文書内には、次のように記されている。

「本学としては、ポストコロナ対策の一環として、従来の対面型授業と新たな形態として受け入れる非対面授業との両面において、授業設計の在り方を研究し、ICT活用推進施策、施設・設備に関する環境整備等のほか、支援体制の充実を含む必要な施策等を講じていかなければなりません。」

「また、学士課程教育としての質保証を十全にしていく観点からは、従前より高度な授業改善が求められ、それに向き合うためには、本学の教育力を組織的に高めていかなければなりません。具体的には、対面・非対面授業の双方に関するFDの体系化を主として、学部及び学科のみならず、全学としてのカリキュラムマネジメントに活かしていくことが重要である」

学長自ら上記の方針を示し、コロナ対策に留まることなく、コロナ禍以降の将来的な改革構想に着手することを明確にした。

上記の将来構想検討会議は学内教職員で構成され、約半年間の協議を経て、2020年12月15日に学長のもとに検討報告書を提出し、さらに学部長会議等の諸会議において、将来構想の検討案と併せて報告された。

なお、後述する教育DX推進基本計画、中長期計画にこの構想が大きな影響を与えるものとなっている。

#### ■将来構想を踏まえた具体的な計画（教育DX推進基本計画）の策定

「遠隔授業の高度化と質保証にかかわる将来構想検討会議」による検討報告書と将来構想を踏まえ、学長の下において、具体的な計画策定に着手した。

具体的な計画策定においては、将来構想検討会議の設置趣旨として学長が自ら示した、「本来であれば、学生たちはキャンパスにおける議論による学びと自由な交流を満喫し、キャリア展望に沿った学修を重ねるはずであった。さらには、オリンピック・パラリンピックという大きなイベントを様々な立場から体験し、豊かな時間が待っていたはずであった。そうした期待が裏切られ、登校もままならず、友人たちとの時間も課外活動や行事への参加も制限され、一番戸惑い不安を抱いて過ごしたのは学生である」を踏まえ、学生本位の大学づくりを重視することとして、現在のコロナ禍により行動制限を余儀なくされたり、ありとあらゆる情報の海のなかで溺れてしまったり、孤独を感じている学生たちをそのままにしておかないよう、学生を中心に教職員らが繋がりあって支えていくこと目指すこととなった。

また、2021年4月に大学基準協会に提出された認証評価報告書の序章には、「学生の学びの質を保証するための一連の取り組みが一過性とならないよう、そして一層の充実を諦めることなく追求する不断の取り組みとして、学生の声に耳を傾け、自律的に検証と改善を繰り返すことにより、学習者本位の教育システムを構築する」と示された。こうした学長の考えを踏まえ、「学生ひとり一人の成長を保証する」方針のもとに、オンラインツール等のICTを活用した改革と併せて、教学執行部の下で「教育DX推進基本計画」の策定に着手した。

策定された「教育DX推進基本計画」は、2021年1月15日に学部長会議にて報告され、教職員の意見聴取（アンケート）を経て、学長から今後の進め方等について、1件ごとに回答を行っている。また、同年1月25日の常務理事会、1月28日の事務局部長会議にて報告し、大学全体において共有している。

## ■教育DX推進基本計画の基本方針

### ～基本方針・コンセプト～

本学は、「学生ひとり一人の成長を約束するため、デジタルを十分に活用した学修者本位の教育の実現を目指し、大学全体の教育の高度化と質保証を十全にすること」を本事業の推進に当たっての基本方針に掲げるとともに、具体的な計画として、以下の5つの教育DX推進基本計画を策定する。

- ・入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用
- ・オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化
- ・建学の精神の具現化を目的としたリカレント教育の世界展開（国内地域含む）
- ・学生の成長を中心に据えた体系性あるFD・SDプログラムの構築と学内業務の断捨離
- ・デジタル活用推進本部（仮称）による推進体制と外部人材を採り入れた評価体制

なお、上記の教育DX推進基本計画については、学校法人東洋大学における事業計画及び中期計画の推進の一環として扱い、全学を挙げて取り組むものである。

### ～計画の立案及び検証における基本的な考え方～

以下の考え方を踏まえ、本学のキャンパスの状況や時代の要請を踏まえた教育制度等の

見直しに即応しながら、具体的な計画の立案と検証を行い、最適化を図るものとする。

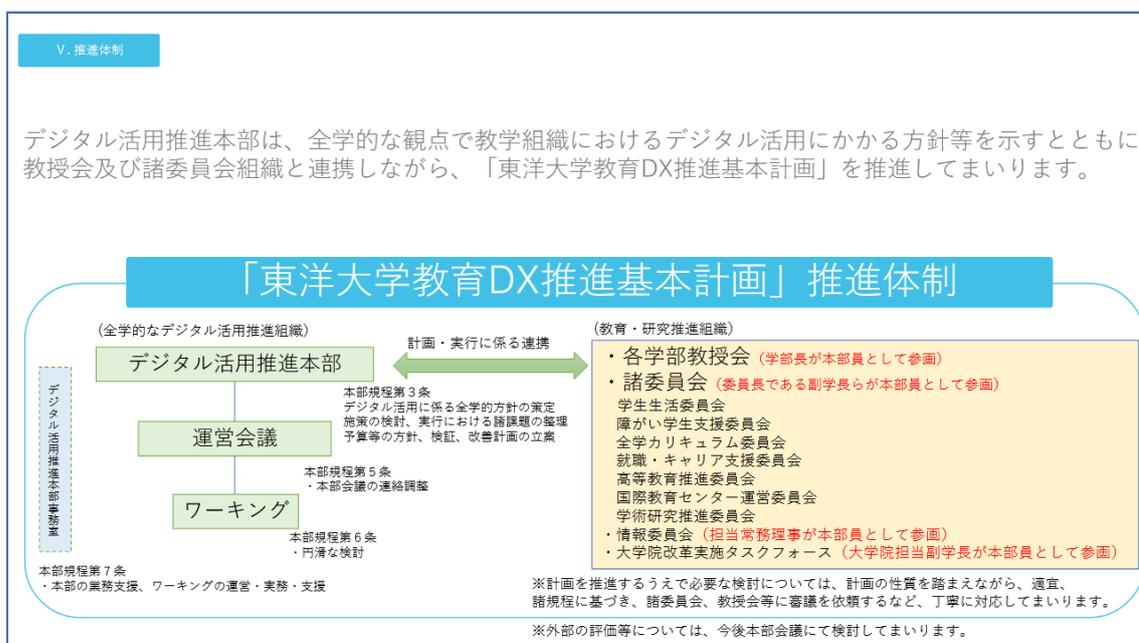
- ・学修者本位の教育の仕組みを重視し、大学の原点である「知」が交流するキャンパスとなるよう、教員と学生、学生同士の対話を通じた学びの機会が充実する構想であること。
- ・ICTを十分に活用し、教育効果を高めるよう、教育環境の充実を図る構想であること。また、場所や時間などの制約を解消し、各キャンパス、各学部等の教育資源を有効に活かす構想であること。
- ・単なるデジタル化を進めるのではなく、学生の成長を促す諸活動（学生支援、就職支援等を含む）を効率的・効果的に行うよう、適宜、従来の運用を見直し、柔軟に変えていく構想であること。それにより、教職員が教育・研究に専念する時間を増やすほか、授業運営等の効率的なマネジメントができる構想であること。
- ・教育及び学生支援等の実施・支援に係る体制において、より機動性の高い運営となるよう、組織・制度的課題について、同時並行に改善する構想であること。
- ・建学の精神を具現化する観点から、リカレント教育の積極的な展開を行うほか、留学プログラムなどの海外交流の機会を効果的に行い、本学の教育がいっそう魅力的なものとなり、学生や社会に広く理解されていく構想であること。

出典：東洋大学「遠隔授業の高度化と質保証に係る将来構想検討会議」報告書

## ■計画の運営体制

上記の方針と5つの計画を推進する全学的体制として、教学と法人が一体となった「デジタル活用推進本部」を2021年5月に設置し、学部長や各事務部署、法人役員等との連携のもと、全学横断の推進体制を構築した。

また、計画ごとに教職員によるワーキンググループを学内に形成して進めることとした。（推進体制のイメージ）



## (2) 教育 DX 推進基本計画 1 「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合と AI 解析結果の最適活用」について

### ■計画の概要

詳細は、「教育 DX 推進基本計画」を参照いただきたいが、計画 1 について要約すると以下のようなアクションとなる。

- ・入学から卒業までの学生生活のあらゆる場面における情報提供を円滑にすること
- ・上記の過程で得られた学生行動等の各種データを生かし、学生支援や学習指導等に生かすこと
- ・建学の精神に基づき、哲学を基本として、学生自身の「自己省察」(深く考える)の営みを普段の学生生活のなかで涵養し、社会を考え自己を見つめることのできる学生を育成していくこと。

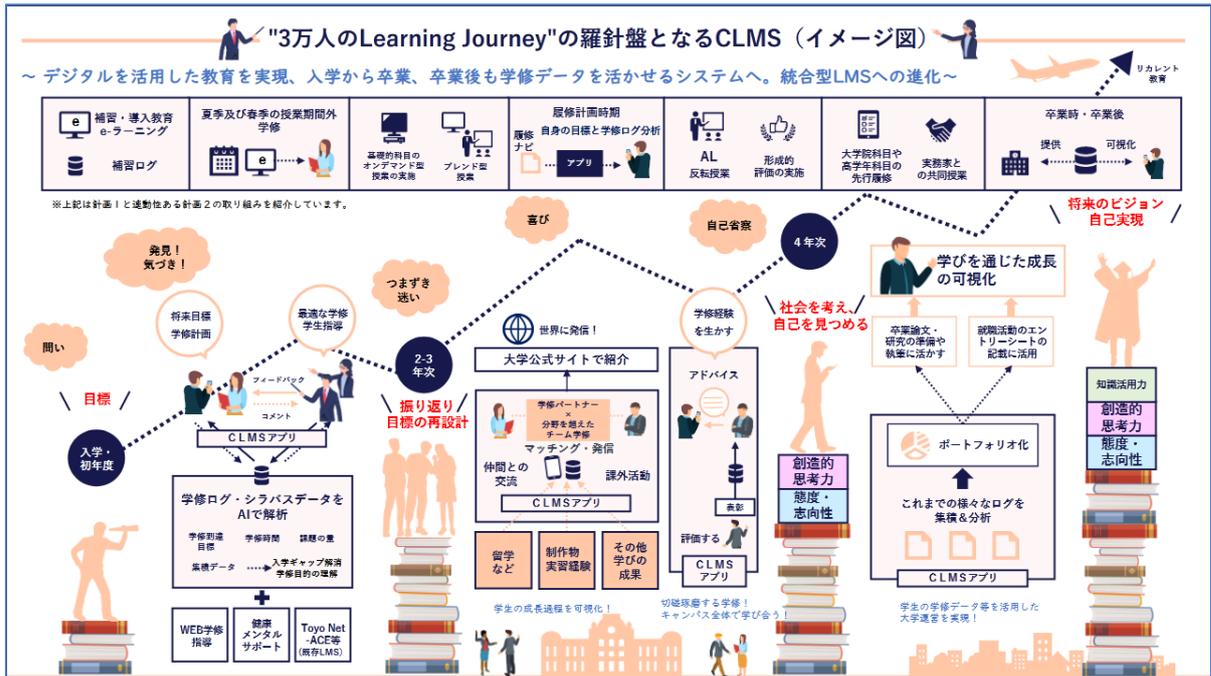
従来、学生の声や学習・生活状況を把握するには、定点観測的に年に一度、または数回、在学生向けのアンケートを実施したり、卒業時にアンケートを行ったりするなど、学生の傾向を包括的に把握し、必要に応じて対策を考えるとといった対応が行われてきた。

しかし、学生本位の学習環境の整備や学生支援を行っていくためには、十分な把握ができていないとはいえない。とりわけ、コロナ禍においては、学生は感染リスクだけではなく、社会環境が激しく変化する状況のなかで、さまざまなリスクと向き合って生きている。等計画は、大学が学生の状況を適時把握し、教職員がその場その場で必要な判断を繰り返しながら、最適な支援や情報伝達の仕方を変えたりすることを目指したものである。

多種多様な情報があふれている今、単に大学が学生に対して一方的に情報を発信すれば、学生が有益な情報を掴み、アクションに繋がるわけではないことを認識し、学生らの状況をなるべく把握できるようにデータを集め、常時観測型に切り替えていく必要があると考えている。また、学生が将来や進路を考える時期は、必ずしも学期ごとの成績発表のタイミングとは限らない。学生ひとり一人にとって、自己を見つめるきっかけやタイミングは異なるものであり、学習計画についても履修登録の科目選択に留まらず、描く将来像や目指す進路検討の機会は柔軟であってよいのである。

こうした検討経緯を踏まえ、本学は学生との接点を重視し、学生の傾向や関心をつかみながら、キャンパスライフの羅針盤として、多種多様な情報をスマートに提供することや、学生ひとり一人の成長を促すものとして、自己省察を促す機会を創出していくものを目指した次第である。

## ■計画のイメージ



上記の考えやイメージのもと、学生と大学とのデジタル接点を重視するため、スマートフォンアプリの開発と各種のデータ統合、分析をする仕組み、さらに分析した結果を学内共有するポータルサイトの構築や体制づくりについて、2021年12月から本格的に着手した。

以降、2021年4月の「東洋大学公式アプリ」のリリース以降の取り組み等について、主要なものを中心に記載する。

### ■「東洋大学公式アプリ」の機能について

2022年4月のリリース以降、2023年9月現在、以下の機能が搭載されている。

- ・ TOYO-Info (お知らせ機能)
- ・ TOYO-Discover (イベントや学生体験につながる各種情報<ポスター形式表示>)
- ・ TOYO-Navi (各種FAQや情報ソースへのアクセス)
- ・ TOYO-PASS (本人確認QR表示、入場管理チェックイン、読み取り後の履歴管理など)
- ・ TOYO-Calendar(学年暦や運動部スポーツ試合観戦カレンダー、各種窓口時間帯など)
- ・ MyJourney (学生たちの自己省察を促す仕組み)
- ・ Class (履修に関する情報、休講情報のプッシュ通知など)
- ・ 各種システムへのシームレスなログイン (シボレス認証)

ToyoNet-ACE (LMS)、ToyoNet-G (学務システム)、学修成果・成績確認システムなど

上記のとおり、至ってシンプルなものとなっているが、複数システムとの連携やGoogleWorkspace (Googleカレンダーやフォームなど)を活用して、自分たちでより良い

アプリへと成長させていくことを開発コンセプトとして重視した。

(学報でのお知らせ)



**「新しい学びの旅のはじまりにあたって」**

いよいよ2023年度が始まりました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。上級生の皆さん、これまで以上に豊かな学びと様々な経験ができますように願っております。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに苦しんできた3年間、そして、昨年2月からのウクライナへの軍事侵襲により、多くの人々の命が奪われ、平和な生活が失われる痛撃的な事態を目の当たりにしてきました。私たちに何が出来るのか、何をしなければならぬのかという問いと向き合いながら、今、新たな自分を邁進していきます。

これまで制限されていた海外渡航は徐々に再開され、2022年度の交換留学生数は、派遣数、受入数ともにコロナ禍前を上回る実績となり、直接的な国際交流も活発に行われています。異文化理解が繋がる貴重な機会を活かし、皆さんの学びを一層豊かなものにしていただきたいと思います。

本学は1887年に井上博士によって私立哲学部として創立され、建学の精神である「語学の基礎は哲学にあり」を大切にしています。皆さんには、社会的課題の多い困難な状況下においても、この建学の精神を尊重し、特許や事業の背後にある本質に迫るためにとことん考え抜き、さらには多様な人々の考えに出会い、議論を交わすことで自らの判断を醸成しながら行動する力を磨いていただきたいと思います。

2022年4月より、成年年齢が18歳に引き下げられ、皆さんは保護者の同意を得ずに自らの責任において各種契約を結ぶことができ、政治への参画責任も重いものとなりました。保護者に守られてきた学校教育の彼ととしての立場から、自ら判断し、主体的に生きていくことが必要不可欠となる行動が求められます。まさに、東洋大学が建学の精神として掲げている「独立自活」が求められ、市民としての「知徳兼全」が、一層重要性を増します。物事の本質に迫って考える力を身に付け、自らの信念をもつて生きることを目指し、学びの旅 (Learning Journey) を続けていきたいと思います。

そうした皆さんの学びの旅の羅針盤となることを目指し、「東洋大学公式アプリ」をリリースして1年が経ちました。学生の皆さん一人ひとりが学びの旅を主体的に続けられるように、羅針盤としての機能をさらに拡充してまいります。

2021年6月、本学は「学校法人東洋大学SDG4行動憲章」を制定しました。国連の掲げる「持続可能な開発目標」への貢献を自分事として捉え、インクルーシブでダイバーシティあふれる社会づくりを行動によって示す決意をしたのです。すでに、世界共通の課題の解決に向けた取り組みが力強く展開されており、学生の皆さんによるSDG4アンバサダーが多様な活動を繰り広げております。その精神は、「他者のために自己を置き、活動の中で奮闘すること」であり、それは大いに引き継がれてきた「東洋大学の心」でもあります。

あらゆる活動において、この心を大切に今年も努力を重ねてまいります。

### 東洋大学公式アプリ活用ガイド

東洋大学公式アプリでは、大学からの重要情報の提供やキャンパスライフでの役立つ情報、学びをより豊かにしていくための機能を搭載。ダウンロードしてキャンパスライフを充実させましょう。

**ダウンロードはこちら！**  
 ●皆さんのキャンパスライフをともに歩むアプリです。  
<https://www.toyo.ac.jp/s/dxapp/>  
※必ずダウンロードしてください。

**TOYO-info**

大学からの情報を速さない！ 毎日朝・晩チェック！

TOYO-infoでは、学生一人ひとりに対し「あなたへのお知らせ」を配信しています。また注目度の高いお知らせをまとめた「トヨタ情報」や「アップマーク情報」などの機能もありますので、活用してください。

例えばこんなお知らせが届きます！

- ▶ 部活連絡・イベントシッパ
- ▶ 留学先
- ▶ 留学・留学先アップ
- ▶ 資格取得講座

**TOYO-discover**

大学の新しいカタチ！ デジタル発見術

大学主催のイベントや大学関連情報アプリ内に集約。皆さんにとって新しい発見や体験を得ることが出来ます。今後は学生の皆さんからの情報提供も可能に！ SNS感覚で気軽に目星を当ててください。

**My Journey**

学びや気づき・出来事記録しよう！

授業の振り返りから将来の目標まで、日記感覚で学生生活の学びの旅 (Learning Journey) を記録。記録機能に活用をダウンロードし自己分析にも活用出来ます。あなたの学びの旅 (My Journey) をスタートしよう。

**TOYO-navi**

学生生活の「困った」「わからない」を解決！

TOYO-naviでは、学内検索や検索して見たい学べるように多くのポイント検索をまとめています。学生の「見たい情報」が見つかりやすくなっています。

こんな「わからない」を解決！

- ▶ 学内・学外の検索の仕方について
- ▶ 見たい情報を絞り込みたい場合の検索方法
- ▶ 検索結果からどうやって見たい情報を見たいのか

**「緊急連絡」機能**

大規模な災害時の緊急連絡や一斉連絡の連絡先をあらかじめ登録しておくことで、緊急連絡が配信されます。

**TOYO-PASS機能**

学内での本人確認や入館・入館の必要書類 (チェックイン) の際に使用します。

**Class機能**

履修している授業の時間割の確認や履修人数を把握することが出来ます。

**Calender機能**

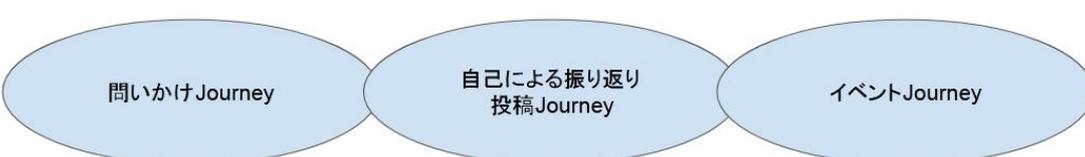
授業目標の達成状況や学生の進捗管理など学内のスケジュールを管理しています。

▶ **プッシュ通知の機能** 大学からのお知らせ「TOYO-info」、休講連絡、開校100周年のMy Journeyをプッシュ通知にて確認することができます。またプッシュ通知の設定変更を行うことが、自分の知りたい情報のみに絞ることも可能です。

## ■特徴的な取り組みと成果

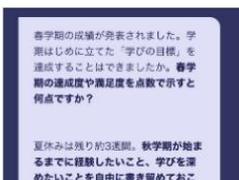
### ①「MyJourney (学生たちの成長機会となる自己省察を促す仕掛け)」

## MyJourney機能概要



**問いかけ Journey**

大学から配信 (1~2か月に1回程度)  
選択式のアンケートと自由記述形式



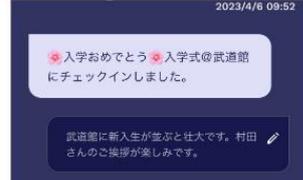
**自己による振り返り  
投稿 Journey**

学生が自由なタイミングで記述  
自由記述+アイコン



**イベント Journey**

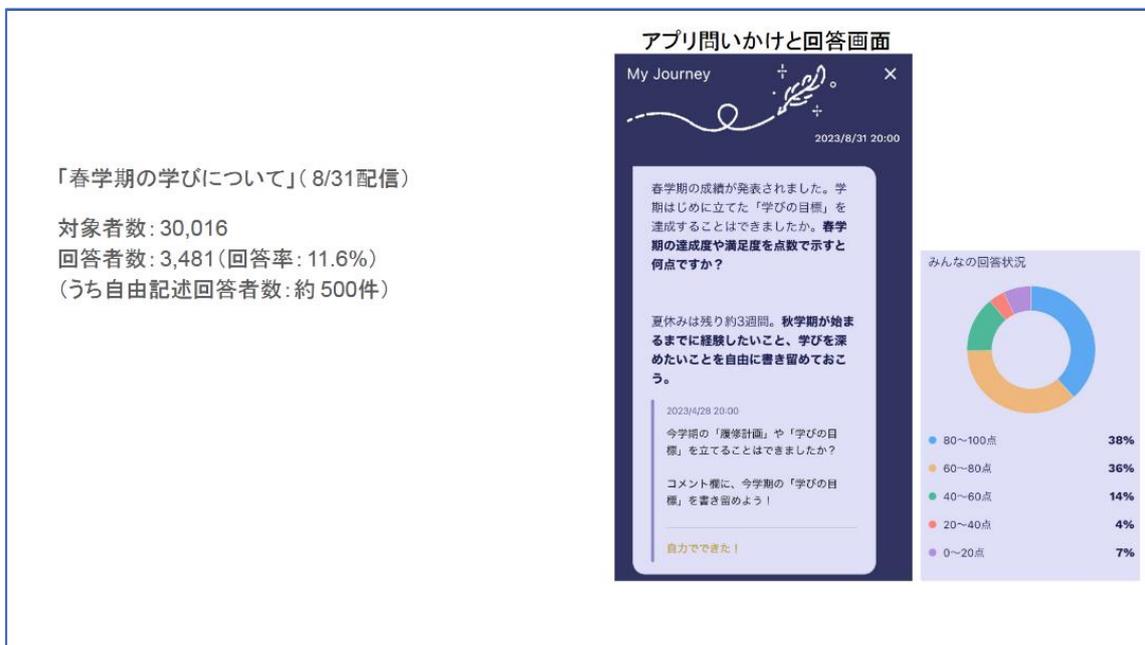
イベント受付を行うと質問がポップアップ  
記述も可能 (比較的短文を想定)



「問いかけ Journey」は、大学から学生たちに学びや進路などを考えるきっかけとして、問いかけメッセージがプッシュ通知で送付され、その問いかけに対して、学生が自由に、その時の気分や思いなどを記すことができる。

また、大学から愛校心の情勢につながる印象的なメッセージや、留学・就職活動・課外活動など、学生生活シーンに沿う有益な情報を併せて届けることで、学生のアクションを促す動機付けにつなげている。

(問いかけ例と学生たちの反応)



(問いかけ内容の例)

問いかけ内容：「春学期の成績が発表されました。学期はじめに立てた「学びの目標」を達成することはできましたか。春学期の達成度や満足度を点数で示すと何点ですか？夏休みは残り約3週間。秋学期が始まるまでに経験したいこと、学びを深めたいことを自由に書き留めておこう」

(上記の問いかけに対する実際の学生の投稿内容より 一部のみ掲載)

学業成績については今まで積み上げてきたものを堅持でき、非常に満足のいく結果となった。強いて言うなれば、次の秋学期では、今春学期の成績を超えていきたいと思う。

就活については、この夏休み中、既に3社のインターンシップに参加し、今後もあと2社に参加予定である。自らの将来像が、徐々にクリアになってきた今日この頃である。

残りの夏休み期間、インターンシップを通じた業界・企業研究および自己分析に勤しみ、またプライベートも充実させていきたいと思う。そして来る秋学期に向けては、履修登録を無事完了させたうえ、座右の銘の通り「人事を尽くして天命を待つ」日々にしてゆきたいものである。

思っていたよりも良い成績が取れていた後期も引き続き頑張りたい  
 アルバイトを始めたので夏休みの期間で仕事に慣れたい

部活では大会があるので集中して練習に取り組みたい

勉強は1ヶ月ろくにやっていないので9月はTOEICの英語の勉強に取り組む

大学で初めての成績発表で、どのようにすると良い成績になるのかなど分からない状態だった。その中でCはひとつもなく、Sが2つあり、自分としては頑張ったと思う。この調子で苦手な部分はもう少し念入りに、上手くできたところは維持を意識していきたい。初めてにしては、頑張れたと思う。

初めてのフル単。テスト勉強も効率的に進められた。卒業のため、専門科目が多くなるため、勉強により一層力を入れるとともに、就職活動にも視線を向けていこうと思った。

(他の問いかけ Journey の例 データポータルより)

▼問いかけの内容													PDF形式でページをダウンロード			
id	配信日	内容	回答タイプ	回答選択肢1	回答選択肢2	回答選択肢3	回答選択肢4	回答選択肢5	フィードバックコメント							
147	2023/04/07	新学期が始まりました。今年度実現したいこと、やりたいことはなんですか？コメント欄に今年チャレンジしてみたいことを1つ書いてみましょう。今年1年間、自分の気づきや経験を書き留めよう！	選択肢・コメント	学問・スポーツを究める！	海外体験したい！	趣味やサークルを楽しむ！	インターンシップに挑戦！	その他	何かひとつ本気で取り組むことができれば、それは立派な経験になります。結果を気にせず、今年1年あなたらしく過ごしてください。東洋大学の先輩の経験をのぞいてみましょう。 <a href="https://www.toyo.ac.jp/nyushi/column/student/">https://www.toyo.ac.jp/nyushi/column/student/</a> <a href="https://www.toyo.ac.jp/nyushi/column/student/">https://www.toyo.ac.jp/nyushi/column/student/</a> 同じ世代のほかの人はどんなことに興味がある？ <a href="https://newspicks.com/news/8301921/body/">https://newspicks.com/news/8301921/body/</a> <a href="https://newspicks.com/news/8301921/body/">https://newspicks.com/news/8301921/body/</a> ※外部サイトにリンクします							
146	2023/04/07	4年生の皆さん！今年度中にやってみたいことはなんですか？コメント欄に今年チャレンジしてみたいことを1つ書いてみましょう。今年1年間、自分の気づきや経験を書き留めよう！	選択肢・コメント	学問を究める！	早く就活を終えて、遊ぶ！	旅に出る！	サークルや趣味、ボランティア活動を	その他	何かひとつ本気で取り組むことができれば、それは立派な経験になります。結果を気にせず、今年1年あなたらしく過ごしてください。同じ世代のほかの人はどんなことに興味がある？ <a href="https://newspicks.com/news/8301921/body/">https://newspicks.com/news/8301921/body/</a> <a href="https://newspicks.com/news/8301921/body/">https://newspicks.com/news/8301921/body/</a> ※外部サイトにリンクします							
▼回答結果																
id	キャンパス	学年	対象者数	"記録する"押下者数	"記録する"押下率	(うち回答1)	(うち回答2)	(うち回答3)	(うち回答4)	(うち回答5)	コメント入力者数	コメント入力率	"あとで"押下者数	"あとで"押下率	未反応者数	未反応率
147	白山	2	4,806	903	19%	33%	18%	29%	10%	10%	170	4%	3,836	80%	67	1%
147	白山	3	4,641	767	17%	21%	11%	10%	50%	9%	101	2%	3,657	79%	217	5%
147	川越	2	1,106	225	20%	39%	10%	35%	8%	8%	32	3%	864	78%	17	2%
147	川越	3	1,062	185	17%	22%	4%	14%	51%	8%	23	2%	841	79%	36	3%
147	赤羽台 (WELLB)	2	716	129	18%	31%	16%	40%	5%	8%	22	3%	578	81%	9	1%
147	赤羽台 (WELLB)	3	696	92	13%	24%	10%	21%	38%	8%	14	2%	573	82%	31	4%
総計			14,664	2,574	18%	29%	13%	22%	27%	9%	418	3%	11,547	79%	543	4%

(他の問いかけ Journey の回答やコメント数などの実績)

問いかけ Journey   一覧																
id	配信日	回答タイプ	対象者数	"記録する"押下者数	"記録する"押下率	コメント入力者数	コメント入力率	"あとで"押下者数	"あとで"押下率	未反応者数	未反応率					
157	2023/08/31	選択肢・コメント	30,012	4,014	13%	583	2%	15,433	51%	10,565	35%					
156	2023/07/28	選択肢・コメント	29,502	7,329	25%	485	2%	15,060	51%	7,113	24%					
153	2023/06/06	選択肢・コメント	31,074	5,235	17%	266	1%	20,234	65%	5,605	18%					
150	2023/04/28	選択肢・コメント	30,012	5,004	17%	477	2%	21,687	72%	3,321	11%					
149	2023/04/18	選択肢・コメント	7,614	1,758	23%	183	2%	5,780	76%	76	1%					
148	2023/04/07	選択肢・コメント	7,614	2,552	34%	587	8%	5,041	66%	21	+0%					
147	2023/04/07	選択肢・コメント	14,664	2,574	18%	418	3%	11,547	79%	543	4%					
146	2023/04/07	選択肢・コメント	7,882	1,240	16%	133	2%	5,373	68%	1,269	16%					
140	2023/03/22	選択肢・コメント	6,590	824	13%	72	1%	2,720	41%	3,046	46%					
136	2023/02/16	選択肢・コメント	6,973	808	12%	59	1%	3,811	55%	2,354	34%					
135	2023/01/30	選択肢・コメント	28,777	4,948	17%	584	2%	14,847	52%	8,982	31%					
133	2023/01/27	選択肢・コメント	464	107	23%	15	3%	234	50%	123	27%					
132	2023/01/11	選択肢・コメント	1	1	100%	1	100%	0	0%	0	0%					
130	2022/12/23	選択のみ	29,854	3,236	11%	0	0%	13,514	45%	13,104	44%					
127	2022/12/19	コメントのみ	14,738	408	3%	406	3%	12,996	88%	1,334	9%					
125	2022/12/09	コメントのみ	29,854	512	2%	506	2%	21,315	71%	8,027	27%					
124	2022/12/07	コメントのみ	9,854	255	3%	255	3%	8,606	87%	993	10%					
123	2022/12/07	コメントのみ	4,997	57	1%	57	1%	3,760	75%	1,180	24%					
122	2022/11/29	選択のみ	29,854	7,707	26%	0	0%	14,381	48%	7,766	26%					
121	2022/11/21	選択肢・コメント	9,854	1,195	12%	96	1%	7,550	77%	1,109	11%					
120	2022/11/21	選択肢・コメント	4,997	548	11%	25	1%	3,027	61%	1,422	28%					
118	2022/11/08	選択肢・コメント	9,854	1,019	10%	102	1%	8,219	83%	616	6%					

## (MyJourney 全体の利用状況)

Journey利用状況			問いかけJourney			イベントJourney		投稿Journey		
集計期間	2022/04/01 - 2023/09/03		最終更新年月	配信数	回答数	コメント数	配信数	コメント数	投稿数	コメント数
学生種別グループ: 学部生	(4)	-	202204	0	0	0	0	0	0	0
学生種別	-	-	202205	0	0	0	0	0	0	0
学部状態	-	-	202206	0	0	0	0	0	0	0
学部/研究科	-	-	202207	0	0	0	0	0	0	0
学部/専攻	-	-	202208	181,930	35,231	11,206	0	0	0	0
専攻	-	-	202209	30,986	1,288	1,114	0	0	463	360
学年	-	-	202210	1,907	125	153	0	0	608	508
			202211	70,857	8,589	1,035	0	0	395	337
			202212	107,014	10,638	1,182	0	0	347	289
			202301	10,603	1,343	103	0	0	418	294
			202302	31,761	5,229	621	0	0	141	133
			202303	10,975	1,432	104	71	2	185	168
			202304	37,686	8,090	1,326	12,013	1,306	1,194	1,052
			202305	30,137	5,058	500	5,105	113	482	455
			202306	30,081	5,044	262	8,138	194	401	384
			202307	3	0	2	6,241	151	301	289
			202308	29,509	7,328	492	753	23	185	176
			202309	1	1	1	21	0	17	16
			総計	573,450	89,396	18,101	32,342	1,789	5,137	4,461

この MyJourney は、学びやキャンパスライフのなかで「自己省察」(振り返り)を促すものであるが、建学の精神(「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」)を踏まえた本学にとって独自性の高い機能であり、自ら考えて行動する、活動のなかで奮闘する人材を育成する大学の理念に照らして、計画1のなかで最も重視した機能である。

従来の典型的な学びの振り返りの機会は、成績発表時や卒業式といった範囲に留まりがちであったことから踏まえると、現在の状況としては、柔軟性を増すことができたと考えている。また、一部の学部・学科では独自の学習ポートフォリオを展開することや、成績不振学生の面談等があったものの、大学全体として学生本位での「振り返り」の機会創出は、初めての取り組みであったといえる。

特に「問いかけ Journey」はスマートフォンへのプッシュ通知の機能により、学生のキャンパスライフに沿うかたちで、ダイレクトに届けることができる。また、比較的平易な表現で問いかけることで、学生自身が等身大で振り返ることができたり、選択肢回答の結果をドーナツグラフで見せることで、他の学生がどのように考えているか、また感じているかなどの他者理解や他者共感につながるものが得られるものとなっている。

一方、「イベント Journey」はアプリの TOYO-PASS 機能で学生 ID の QR コードを表示することで、イベント参加時にチェックインし、その履歴などが MyJourney の画面で確認できたり、コメントを残したりすることができる機能である。同機能は、入学式や卒業式の入場管理、硬式野球部やラグビー部などの運動部試合の観戦チケットを試合会場で配布する際に活用したり、就職・キャリア支援部の就職セミナーの参加時などに、参加した時のメモや感情や考えなどを記録に残したりすることを目的に活用している。

なお、運動部応援につなげる機会は、本学の「TOYOSportsVision」に基づく、スポーツを「する人・みる人・ささえる人」を育成する方針のもとに、スポーツ応援文化の醸成の一



従来、各部署が運営する大学ホームページは、情報が各所散り散りに掲載されていたり、部署やキャンパスごとで掲載内容を共通化できるものがバラバラに取り扱われていたりしたため、TOYO-Naviにより、学生視点で逆引き的にとりまとめたものである。

開発時に、問い合わせ対応の効率化の観点から、「チャットボット」の導入についても検討したが、窓口機能をチャットボット化してしまって、かえって学生対応の質低下を招いてしまったのは、本末転倒であることから、部署間を超えて話し合い、なるべく提供すべき情報をWebでまとめ、検索しやすく、辿りやすいナビゲーション機能を備えたアプリ内サイトを構築した。

特徴的なものとして、TOYO-Navi内にある「落とし物サイト」は比較的学生や教員等に利用されている。業者の開発に依存せず、学内部署の連携により独自開発し、リリースしながら自前で改修等を繰り返しながら、利用定着化を図ったものである。

(アプリ内の落とし物発見サイトの画面)



(学生作成 「落とし物サイト」紹介動画(「公式アプリPR隊」twitter内動画))



<https://twitter.com/i/status/1589939035107037186>

こうした取り組みは、電話による問い合わせをする必要が減り、自分であらかじめ探したうえで、窓口に来ることができるので利便性も高く、学生らにとってメリットも大きい。

さらに、学生部による対応業務の効率化にもつながっており、業務DXの一環として共有された情報では、170時間相当の削減に繋がったことが報告されている。

## 手続きの電子化・ペーパーレス化

INIADや情報企画課「すまのIT相談室」との部署間連携により、各所の手続きの効率化（時間短縮・ミス防止）を進めています。

**第7波 残業3h/日の状況**

**メール受付&個別電話**  
コロナ感染の連絡と支援措置対応（学生部）

Googleフォーム×スプレッドシート  
×自動配信メール

**第8波 残業1h/日程度に短縮**

**エクセル提出&押印**  
清掃会社の業務日報チェック（管財部）

Googleフォーム×スプレッドシート  
×自動配信メール

**280時間短縮/年**

**郵送×手書き  
集約・チェック作業**  
教員の出向コマ・時間割編成の準備（教務部）

GoogleAppシート（簡易アプリ）  
×スプレッドシート

**42時間短縮/年**

**ショーケース&電話対応**  
学内拾得物の学生対応（学生部）

Googleサイト×スプレッドシート  
アプリから落とし物を発見できる。

さらに、TOYO-Naviのタップ回数や検索ワードについても常にポータルサイト内で閲覧可能となっており、学生たちが何を大学に求めているか、またどのような情報を探しているかを把握しやすくしている。各部署は、検索ワードの上位のものを把握しながら、学内の学生支援や大学内の施設設備の改修等の検討に生かしている。

（学生たちのアプリ内検索ワード）※学生たちが何の情報を探しているかを俯瞰

検索ワード   月別		22年08月	22年09...	22年10...	22年11...	22年12...	23年01...	23年02...	23年03...	23年04...	総計
1	成績	1,867	399	90	98	82	513	2,738	575	123	9,418
	履修登録	394	2,461	117	11	16	45	330	761	1,760	6,311
	履修	300	1,822	262	33	42	65	174	573	1,419	5,139
	健康診断	2	26	5	3	4	11	29	589	3,825	4,668
5	時間割	83	752	159	62	72	89	98	506	586	3,014
	シラバス	72	548	100	64	69	102	71	249	1,100	2,774
	TOEIC	30	129	292	639	644	99	47	88	263	2,696
	カレンダー	101	211	256	183	244	172	72	171	455	2,513
	成績発表	536	37	2	4	2	116	740	44	3	2,182
	抽選	7	712	25	8	2	1	4	33	1,175	2,016
10	g	120	532	56	28	11	53	105	143	619	1,967
	奨学金	50	107	112	69	91	110	54	94	521	1,731
	toyo	87	147	135	114	75	99	26	20	401	1,564
	図書館	61	67	94	114	74	133	64	54	256	1,528
	教科書	-	353	258	1	5	-	1	2	823	1,461
	ace	82	252	336	219	133	83	28	21	178	1,458
15	G	97	297	29	24	21	41	82	82	512	1,416
	落とし物	25	14	83	84	60	61	10	9	276	1,308
	学食	33	76	105	54	39	91	38	72	321	1,265
	開放教室	15	164	170	139	83	79	14	6	194	1,230
	toyonet	107	303	118	27	25	30	43	52	340	1,206
20	卒業	19	47	15	17	22	70	209	581	13	1,053
	生協	26	114	100	43	38	70	26	26	444	1,023
	総計	6,895	19,598	9,513	6,852	6,377	6,443	8,541	10,100	39,702	144,095

学生属性 | 内訳：検索回数（のべ）

	1年	2年	3年	4年	総計
第1部	48,514	33,711	26,903	17,554	126,682
第2部	4,375	3,749	3,138	2,604	13,866
大学院前期	1,626	1,446	-	-	3,072
大学院後期	164	149	134	-	447
通信教育部	-	-	-	28	28
総計	54,679	39,055	30,175	20,186	144,095

情報システム部では、同データから、学生たちが「開放教室」や「空き教室」などを頻繁に検索していることを把握し、白山キャンパスの PC 教室の機器更新のタイミングに伴って、PC 教室を BYOD 対応のオープンスペース化へと改修計画の軌道修正に役立て、予算要求の根拠資料に活用した実績がある。

その他として、カレンダーや学事イベントの検索ワードが多いことを踏まえ、東洋大学公式アプリ内に TOYO-Calendar 機能を Version2.0 で実装した経緯がある。

TOYO-Calendar は、Google カレンダーを部署間連携のもとで編集・更新しているものであり、学年暦カレンダーだけではなく、窓口の開室時間や東洋大学の運動部・スポーツ観戦カレンダーの機能もあり、職員たちが自分たちの手で作成、リリースしているものである。

### (TOYO-Calendar による学年暦情報やスポーツ観戦カレンダー情報)



### ③TOYO-Discover (イベントや学生体験につながる各種情報<ポスター形式表示>)

TOYO-Discover は、学生のキャンパスライフにおいて、多種多様な学習や体験の機会につながる情報や注目させたい情報などをオンライン上の学内掲示板形式でポスターのように閲覧することができるものである。

TOYO-Info (テキストメッセージによるお知らせ機能) では、大学から一方的に送信された情報をテキストベースで読むものであるが、TOYO-Discover は、学生自身の興味関心のある情報を自分で発見して、行動につなげていくものである。

本学では、従来、メールによる情報配信、ToyoNet-G という学務システムによる通知情報が主流であったが、正確な既読状況がわからないものであった。2022 年 4 月以降、東洋大学公式アプリの TOYO-Info では、既読状況が職員側でも把握でき、またポータルサイト内で全学の教職員に共有している。

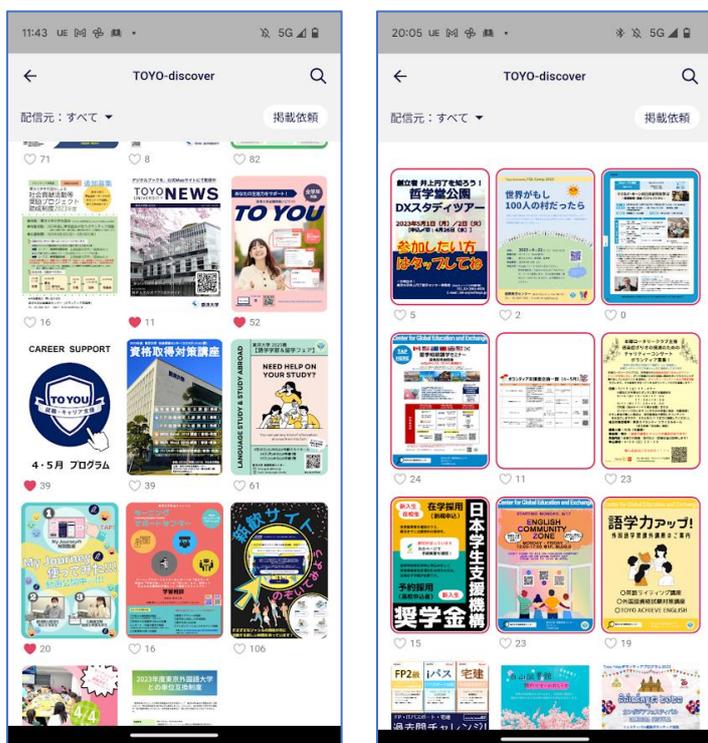
その後、TOYO-Info の既読率をチェックする職員が増えたことにより、既読率が低いケ

ースについて課題として扱うことが多くなった。

「果たしてアプリを学生は見っていないのではないか」「やはりメールや掲示が必要なのではないか」といった声が挙がったことを踏まえ、TOYO-Info の配信者数や記事タイトル、本文内容をすべて調査したところ、各部署が学部や学生のニーズなどに配慮せずに、ブロードキャスト型（大多数に対して配信）での配信が頻繁に行われていることが明らかとなった。

計画当初の狙いでもある、学生たちにスマートに情報を届けることを再度確認し、学生の属性などのターゲティングを意識すること、そのためにはデータを把握すること、ブロードキャスト型の配信のみに依らないよう、ポスター掲示型の情報配信により、ビジュアルで捉えやすいもの、さらに、例えば留学フェアのポスターにどれくらいの学生がタップしているか、どのような属性の学生がタップしているのかなど、学生たちの興味関心を把握することに繋げ、データを利活用していくための方法について検討した。

(TOYO-Discover の掲載画面)



TOYO-Discover の運用を開始するにあたり、学内の各部署の職員が集まって、2023年3月9日に今後の学生向け情報配信の考え方を共有する会を開いた。そこでは、目安として1,000名を超える配信は、TOYO-Infoではなく、TOYO-Discoverにて配信することや、学生に対して思いやりをもって、見やすさや配信時期など、データをもとに検討しながら、工夫することなどを話し合った。

その後、2023年4月にTOYO-Discoverをリリースした以降、前年度同月と比して、TOYO-Infoの既読率の改善が見受けられる。

## (TOYO-Info の既読率の変化)

info既読率   学生1人あたりの平均値		第1部					第2部					合計
配信年月	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計		
202204	29.3%	12.8%	12.3%	5.5%	15.1%	28.1%	14.1%	15.8%	6.5%	15.9%	15.2%	
202205	12.6%	6.6%	6.3%	2.6%	7.0%	13.2%	8.8%	9.3%	3.2%	8.4%	7.1%	
202206	10.7%	6.3%	5.6%	2.5%	6.2%	11.0%	8.3%	8.2%	2.7%	7.3%	6.3%	
202207	11.4%	7.2%	6.1%	2.8%	6.7%	11.2%	9.1%	9.0%	2.7%	7.6%	6.8%	
202208	11.0%	7.2%	6.0%	3.0%	6.7%	11.4%	8.7%	9.0%	3.2%	7.7%	6.8%	
202209	13.1%	9.4%	8.0%	3.7%	8.5%	12.1%	10.8%	10.2%	3.6%	8.9%	8.6%	
202210	8.2%	5.5%	4.7%	2.2%	5.3%	8.4%	7.2%	6.6%	1.9%	6.0%	5.3%	
202211	9.0%	6.3%	5.3%	2.6%	5.9%	8.8%	7.9%	7.2%	2.8%	6.7%	6.0%	
202212	8.7%	5.8%	4.6%	2.4%	5.5%	9.6%	8.3%	6.8%	3.0%	7.0%	5.7%	
202301	9.0%	6.6%	6.0%	3.2%	6.4%	9.4%	8.8%	8.1%	3.7%	7.6%	6.5%	
202302	10.8%	8.1%	7.0%	4.6%	7.7%	12.0%	10.6%	8.8%	4.8%	9.0%	7.8%	
202303	22.9%	16.0%	12.1%	8.1%	15.1%	19.8%	15.4%	14.3%	7.8%	14.6%	15.0%	
202304	49.6%	24.6%	19.3%	11.9%	27.4%	47.6%	25.5%	19.7%	14.8%	27.0%	27.3%	
202305	29.2%	19.3%	15.9%	10.7%	19.2%	32.5%	23.5%	20.3%	15.2%	23.2%	19.6%	
202306	20.7%	13.8%	11.9%	6.7%	13.2%	22.4%	16.0%	14.8%	9.1%	15.2%	13.4%	
202307	33.1%	23.2%	18.4%	10.1%	20.7%	35.1%	26.2%	21.9%	14.6%	23.7%	21.0%	
202308	20.0%	15.8%	13.6%	9.7%	14.4%	18.7%	15.3%	12.7%	10.9%	13.7%	14.3%	
202309	5.7%	4.9%	2.5%	2.0%	4.0%	6.6%	3.9%	2.7%	2.2%	4.0%	4.0%	
総計	16.9%	9.5%	8.3%	4.3%	9.8%	16.5%	11.2%	10.5%	4.9%	10.6%	9.9%	

なお、TOYO-Discover のポスターをタップすると、イベント内容や詳細情報にアクセスすることができる。またイベント参加のエントリーフォームや、動画コンテンツへのアクセスなどが可能となっており、学生のさまざまな動機づけと行動への繋がりをもたらすものとなっている。

現在、TOYO-Discover のポスターをタップした学生がイベントに参加しているかなど、国際部や就職・キャリア支援部などにおいて取り組みを開始している。

### ④災害時の安否確認（プッシュ通知による安否確認）

計画検討以前より、本学のBCP（Business Continuity Plan）の策定に向けて、災害時の安否確認を行うことについて、学生部などが検討を開始していた。

このことを踏まえて、東洋大学公式アプリのプッシュ通知機能を生かし、安否確認機能を開発し、2022年7月に全学生を対象に大規模地震の発生を想定した安否確認を実施した。

具体的には、平日の授業期間中の震度6強の地震発生を想定し、キャンパス内の滞在学生、通学・帰宅中の学生の安否状況の確認を行い、帰宅困難学生などの状況把握のシミュレーションを行った。これにより、備蓄食糧の提供準備、宿泊スペースの確保などの準備にかかる課題を確認することが可能となるものである。

第1回の実施では、全学生（通信教育課程を除く）の30,830名を対象に実施し、20,968名（68.0%）が72時間以内に回答した。



その後、2022年12月に教職員（非常勤講師を含む）を対象に加え、第2回を実施した。ほぼ同条件の環境において、学生30,566名、教職員2,654名を対象に実施した結果、回答率は学生が76.8%、教職員が33.5%（常勤の教職員に限る場合：54.2%）であった。

この取り組みを通じて、学生の災害時の行動意識が向上したことが窺えるものの、教職員が学生よりも低いことから、今後、本格的にBCP計画を立案するうえでは、教職員の意識向上が必要であることが明らかとなった。

なお、72時間の把握としているのは、東京都の帰宅困難者対策条例に基づき、災害時に交通渋滞等を回避するための待機時間であることから、本学として設定している。

## ■データ利活用に向けた取り組み

### ①「東洋大学公式アプリ」と各種システムから得られるデータとの統合

東洋大学公式アプリから得られる学生のアクセス情報は、秘匿性を担保したうえでほぼ全て統計・分析可能な状態で管理している。

公開・共有可能なデータは、「TOYO DataPortal」内で学内に限定して共有している。

また、アプリの利用状況に関する詳細データは、学内の限られたものに限定して共有しており、データプラットフォームやGoogleアナリティクスなどを活用し、各種の統計情報をほぼリアルタイムに確認することが可能となっている。

高等教育推進センターでは、東洋大学公式アプリと同時に、GoogleCloudPlatformのBigQuery環境に、学務システム等のデータを格納したり、必要なその他のデータを都度蓄積したりして、多様な分析を行うデータプラットフォームを構築した。

分析情報の提供の特徴的な例として、留学等の経験などのポイントが付与されるTGL（Toyo Global Leader）ポイントの得点とTOEICスコア、語学科目の成績との相関や、卒業時アンケートで把握している学生の「論理的思考力が身についたか」などの項目と履修した科目の相関関係などを学部からのリクエストに応じ、分析結果を共有している。

これらは各種システム内の統計機能を開発するのではなく、多種多様なデータを必要に応じて分析することができるように、柔軟に環境構築することで、大量のデータを瞬時に分析することが可能となっている。

### ②部署間を超えたデータ利活用へのアプローチ

2023年3月に学長より「学生支援等に係るデータ活用の推進に向けて（依頼）」が出され、データ利活用特区としてのアクションが開始された。

国際部、就職キャリア支援部、学生部が特区として示され、以下のようなアクションを開始することとなった。

## データ活用をもとにした支援策の充実のイメージ例（特区的推進の例）

- (1) 就職キャリア支援関連（就職キャリア支援部）
  - ①低学年のキャリア形成に関する動機付け
  - ②インターンシップ、セミナーその他イベントに係る学生の主体的行動の促進
  - ③ターゲットを絞った就職活動中の学生支援の充実
  - ④就職結果と学び（成績・入試・正課外学生体験など）の結び付け
- (2) 留学・語学力向上支援関連（国際教育センター・国際部）
  - ①留学や語学資格・スコア向上の意欲促進
  - ②日本人学生と留学生との交流機会の創出につなげる情報提供
  - ③留学中・後の学生体験に係る積極的な情報発信＜後輩や仲間たちへの情報提供＞
- (3) その他学生支援関連（学生部）
  - ①学生の傾向などの把握
  - ②支援内容（キャンパスアメニティ、相談体制）などの改善

諸委員会、関係部署との連絡調整を丁寧に行いながら進めてまいります。  
学生支援の充実につなげていくよう、ご理解のほどお願いいたします。

## データ活用によるLearning Journeyの充実サイクルのイメージ



上記を踏まえた活動として、現在、次のような取り組みに着手している。

国際部では、留学や語学セミナーなどへの参加者を増加させることを目的に、学生の興味関心、履修・成績状況などの多面的なデータをもとに傾向把握し、情報配信の方法を工夫した。従来は、学内の紙の掲示やメール配信等が主であったが、今回の取り組みにより、国際交流参加者数を伸ばすことができた。新型コロナウイルスの対策が第5類に移行したことにより、海外渡航可能な環境が整い始めたことも要因かと考えられるが、国際部だけではなく、学長室や高等教育推進支援室、情報企画課などの部署を超えた連携がスタートした。例えば、円安の状況などから、長期のインターンシップよりも短期のインターンシップに流れやすいため、留学費用を抑えた体験型のプログラムを多く周知するなど、社会環境と学生の関心の変化を踏まえながら、企画アプローチをしていくきっかけとなっている。

国際部 | 4月開催「語学学習・留学フェア」を基点としたアプローチ



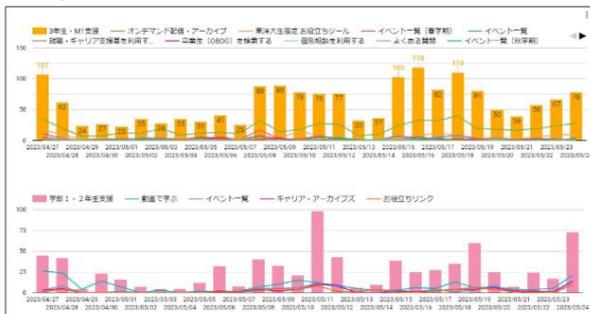
就職・キャリア支援部では、学内の就職支援情報サイトを改め、Google サイトを用いてリニューアルを図った。

これにより、Google サイトのアクセス状況と TOYO-Discover のタップ状況などを把握し、どのような学生がいつどれくらいどのような情報にアクセスしているかを可視化することに着手した。こうした取り組みの過程で、多数貼られていた学内の就職関係情報のポスターを剥がし、就職・キャリア相談室に相談に来やすい環境整備を図った。

就職・キャリア支援部 | ① TO YOU 開設

- 東洋大生向け就職情報ナビサイト「TO YOU」開設
  - 詳細情報は、対象を学内関係者に限定して Googleサイトで公開
  - Googleサイトの閲覧状況を可視化・把握
- 学内掲示を整理・大幅削減

▼Googleサイト閲覧状況



データ活用セミナーvol.2資料(2023年6月1日開催)より



▲ TO YOU サイト



▲ 白山キャンパス就職・キャリア支援課

## 就職・キャリア支援部の取り組み② | 6/29,30開催業界トップセミナーに向けた取り組み

- 国際部の広報シナリオを応用して広報活動を実施
  - セグメント(所属等)ごとにキャッチコピーを分けて周知
    - 国際系学科：日本を飛び出して戦え
    - 経済系：トップ企業のビジネスを知ろう
    - 法学系：民間企業を知る。日本のイマがわかる
  - 情報が届いていないと思われる学生に向けて、対象を絞ってDM配信
  - 委員会および教員への授業周知のご協力
  - 事前申し込みした学生に来てもらえるように、リマインドメールを配信
- “学生がセミナーに参加したくなる”特設サイトを構築
  - 閲覧状況・申し込み状況を随時確認

のべ717名事前申込 (6月27日16:00時点)



12

また、就職・キャリア支援部主催の「業界トップセミナー」では、学生の関心や傾向を踏まえた周知活動を展開し、当初の 500 名参加目標を大幅に超える 717 名の学生参加があった。

学生部及び TOYO スポーツセンターの活動では、「東洋大学公式アプリ」のゲストモードを活用し、卒業生や保護者に向けた運動部応援の周知を行った。さらに学生らに対しても観戦チケットの配布を TOYO-PASS (イベント QR 表示・読み取り)で行ったり、観戦時の感想を MyJourney に投稿したりして、応援文化の醸成に貢献している。

## 学生部・TOYOスポーツセンター事務室 | スポーツ応援文化の醸成①

- ゲストモードでお知らせ配信
  - 「在学生の家族等」「卒業生・サポーター」との接点を増やす



id	配信日	タイトル	配信対象	タップ回数				
				01_学生	02_教職員	03-1_入学予定者	03-2_在学生の家族等	03-3_卒業生・サポーター
69	23/04/10(月)	4月22日(土) TOYO ATHLETE FORUM こけら落としイベント	白山,朝霞,川越,赤羽台,板倉	1,857	109			
184	23/06/05(月)	【卓球】Nojima Cup2023 チケットご招待案内!!	白山,川越,赤羽台,板倉	853	65			
165	23/06/07(水)	ボクシング部 大会応援チケット無料配布!	白山,朝霞,川越,赤羽台,板倉	937	127			
191	23/06/09(金)	東都大学野球1部・2部入替戦	白山,朝霞,川越,赤羽台,板倉	758	91			
195	23/06/15(木)	ボクシング部 関東大学ボクシングリーグ戦ポスター	入学予定者,在学生の家族等,卒業生・サポーター			43	759	78
193	23/06/15(木)	東都大学野球 リーグ戦野球部1部2部入替戦のお知らせ	入学予定者,在学生の家族等,卒業生・サポーター			40	822	68
223	23/06/19(月)	東都大学野球 応援グッズ配布のお知らせ	白山,朝霞,川越,赤羽台,板倉	819	64			

13

- 東都リーグ1部・2部入替戦 (6/23・24)  
→複数の学部・学年の学生がのべ175名応援に駆けつけた

TOYO-PASS | 検索 (学生)

集計期間 2022/08/01 - 2023/06/25

イベント名 126 TOYOスポーツセンター 東洋大学運動部 応援イベント

検索条件チェックイン true

チェックインした学生の属性 ※イベント開催日の年度学籍別表

学生属性グループ名	学年	チェックイン数
1. 学部生	2年	44
2. 学部生	4年	41
3. 学部生	1年	40
4. 学部生	3年	37
5. 学部非正規生	0年	9
6. 博士前期・修士課程生	1年	2
7. 博士前期・修士課程生	2年	1
8. 博士後期課程生	3年	1
9. 大学院非正規生	2年	0
10. 博士後期課程生	1年	0
11. 大学院非正規生	0年	0
12. 遊学学生	2年	0
13. 博士後期課程生	2年	0
14. 遊学学生	4年	0

所属学部・研究科

所属学部・研究科	チェックイン数
1. 社会学部第1部	26
2. 法学部第1部	19
3. 国際学部	15
4. 文学部第1部	15
5. 理工学部	13
6. 総合情報学部	13
7. 社会学部第2部	13
8. 国際観光学部	11
9. ライフデザイン学部	9
10. 経済学部第1部	9
11. 経営学部第1部	7
12. 情報通信学部	4
13. 文学部第2部	4
14. 経営学部第2部	3
15. 食環境科学部	3
16. 生命科学部	3
17. 健康スポーツ科学研究科	2
18. 福祉社会デザイン学部	2

チェックイン数 175



- 【投影のみ】  
コメント19件 (以下一部抜粋)
- 1部昇格!神宮、ただいま!!
  - さいごーだった
  - 同級生がめちゃくちゃ抑えてた。/同級生がタイムリー打ってた。/すげえ。
  - 応援楽しい
  - 感動的な場面だった
  - 硬式野球部の東都1部昇格を見てよかった。球場の雰囲気といい戦国東都だと感じた。

14

このように、段階的ではあるが、学生たちの学びや課外活動を中心としたキャンパスライフの充実につながる施策を「東洋大学公式アプリ」や得られるデータを生かしながら進めている。また、取り組みを進めるにあたって、教職員の連携や部署の垣根を超えた活動が頻繁になされるようになり、学内の改革文化の醸成にも寄与していると考えている。

### ③学生のデータ利活用

従来、学生が学習成果を把握する方法は成績表を確認するに留まっていたが、東洋大学公式アプリのリリース以降、学習成果測定指標に基づく測定結果や GPA (GradePointAverage) ポジションなどを把握することが可能になっている。

また従来より、学生自身の成績状況をより多面的に捉えることができるようになったため、学習意欲の向上に繋げていくことが期待できる。

なお、東洋大学公式アプリから「学修成果・成績確認システム」へはシームレスにアクセスできるようになっているが、現在、学生の閲覧数は全学生の約 30%程度となっている。

今後、学部等による学習指導の充実などを図ることにより、学習成果を把握しながら、学生自身の学びの振り返りを通じて、学生ごとに学習計画が立てられるような取り組みが必要である。

## (累計 GPA 推移の表示画面)

文学部第1部 第1部哲学科 3年

GPA推移
GPAポジション
DP達成状況 (学期毎)
DP達成状況 (累計)

■累計GPAの推移 グラフ切替: 学期GPAにする 📘 グラフ・メダルの表示について

学期	あなたのGPA	同学年・同学科の平均GPA
2020春・1年	2.73	3.24
2020秋・1年	3.17	3.17
2021春・2年	3.23	3.23
2021秋・2年	3.23	3.23
2022春・3年	2.84	3.30
2022秋・3年	2.84	3.38
2023春・3年	2.94	3.20

※平均GPAは、各年度/学期時点で学科(専攻がある場合は専攻)と学年があなたと同じ方を母集団として算出しています。  
■ あなたのGPA  
■ 同学年・同学科の平均GPA  
📘 GPAについて

3年・春学期 (2023年度)

学期GPA: 2.83  
 累計GPA: 2.94  
 出席率: %

[時間割を見る](#) / [目標管理シートを見る](#)

GPAは成績に関する情報のため、初めは非表示としています。下の表示/非表示を切り替えて閲覧してください。

表示

Copyright © HarmonyPlus Co.,Ltd. All Rights Reserved.

## (GPA ポジションの表示画面)

■GPAポジション

3年・春学期 (2023年度)

あなたのGPAポジション(GPA3.38)

😊 あなたの成績ポジションはゾーンCにいます。より充実した学修となるよう、高い目標をもって引き続き取り組みましょう。

※GPAポジションの判定は、各年度/学期時点で学科(専攻がある場合は専攻)と学年があなたと同じ方を母集団として算出しています。(休学等で成績が付いていない方は母集団から除かれています)

※あなたと同値のGPAの方がいる場合、「あなたのGPAポジション」のラインは同値の層の下揃えに引かれるため、やや低い位置に表示されます。なお、表示されているGPAの数値に誤りはありません。

📘 GPAについて

GPAポジションは成績に関する情報のため、初めは非表示としています。下の表示/非表示を切り替えて閲覧してください。

表示

Copyright © HarmonyPlus Co.,Ltd. All Rights Reserved.

## (学習成果測定指標の測定結果の画面)

文学部第1部 第1部哲学科 3年

GPA推移
GPAポジション
DP達成状況 (学期毎)
DP達成状況 (累計)

2022年度/春学期

下記のレーダーチャートは、各学期の成績 (GPA) をディプロマポリシー(DP)ごとに示し、同学年・同学年の平均(青)との比較を表したものです。  
 ディプロマポリシーに記載されているどのようなチャラを身に備けたのかを客観的に把握してみてください。

📘 あなたの学科・専攻のディプロマ・ポリシー  
 📊 DP項目別GPAの計算式について

学科平均比較

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
<b>DP項目別GPA</b>	2.91	4.00	3.28	3.53	4.00
同学年・同学年平均	3.32	3.23	3.33	3.47	3.18

📘 あなたの学科・専攻の「科目とDP項目の対応表」  
 📊 「科目とDP項目の対応表」の説明

No	科目群	履修科目	単位数	評価	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
1	選択科目	哲学と科学A	2	S	○	○	○	○	○
2	選択科目	英米哲学A	2	S	○	○	○	○	○
3	哲学演習群	近世哲学演習 I A	1	S	○	○	○	○	○
4	哲学演習群	現代哲学演習 I A	1	S	○	○	○	○	○
5	哲学演習群	中世哲学演習 A	1	C	○	○	○	○	○
6	哲学特殊講義群	古代哲学特講 A	2	C	○	○	○	○	○
7	哲学特殊講義群	現代哲学特講 II A	0	E	○	○	○	○	○
8	哲学特殊講義群	心の哲学特講 A	2	B	○	○	○	○	○
9	必修科目	哲学概論 A	2	A	○	○	○	○	○
10	必修科目	倫理学概論 A	2	A	○	○	○	○	○

あなたの学科・専攻のDPに対する主な科目のみ表示されています。すべての履修科目および成績はToyoNet-Gで確認してください。

DP達成状況 (学期毎) は成績に関する情報のため、初めは非表示としています。下の表示/非表示を切り替えて閲覧してください。

表示

Copyright © HarmonyPlus Co.,Ltd. All Rights Reserved.

■計画1における目標の達成状況について

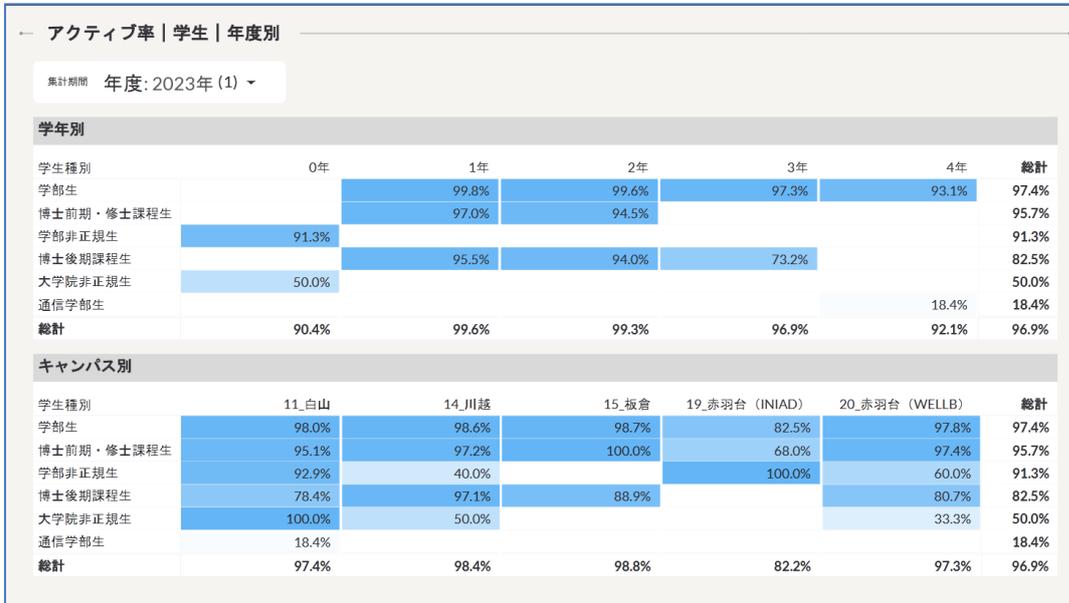
計画1では以下のようなアウトプットとアウトカムの指標を設定している。

【アウトプット指標】

①「東洋大学公式アプリ」利用学生数（アクセス数）

目標：全学生（100%）

実績：2023年9月現在 96.9%

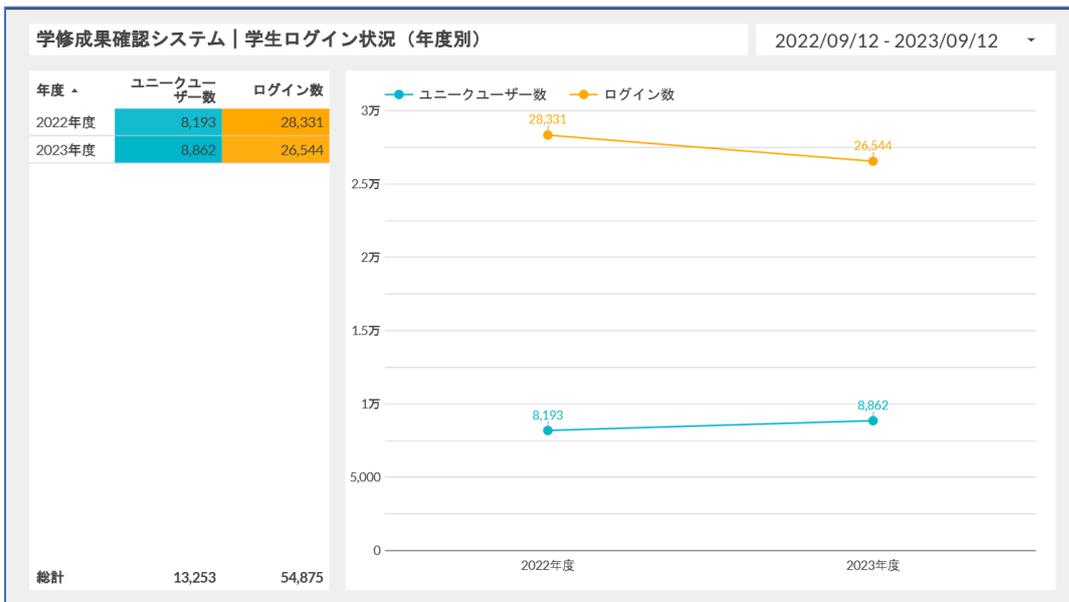


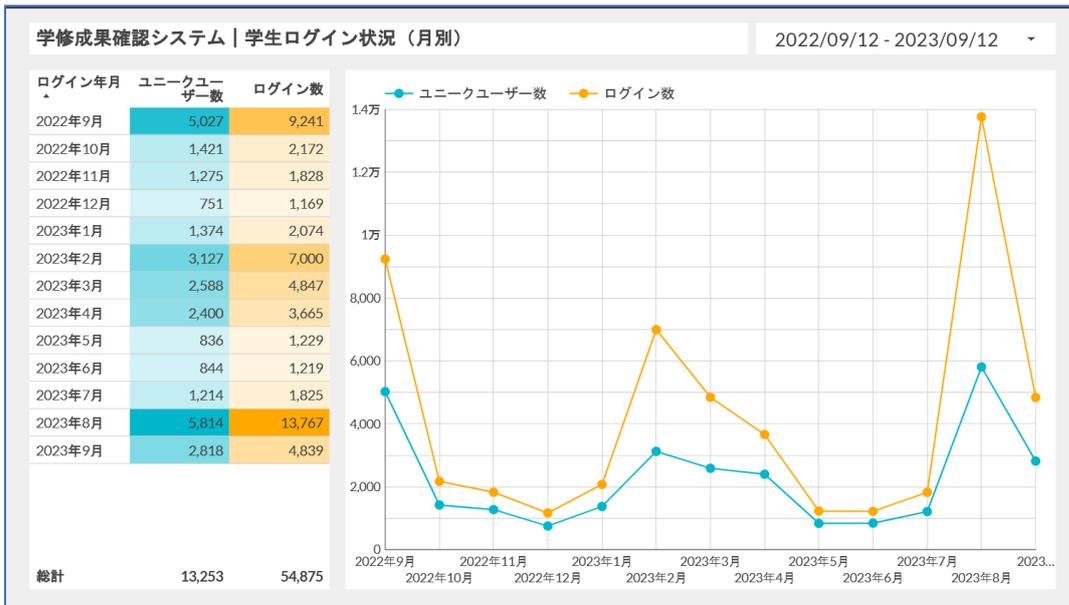
②成績ポジション（学習アドバイスコメント含む）及び学習成果測定結果の閲覧学生割合

目標：全学部生の70%

実績：2022年度 8,193名/在籍学生数 29,695名 閲覧率 27.5%

2023年度9月現在 8,862名/在籍学生数 29,958 閲覧率 29.5%





**【アウトカム指標】**

①在学学生アンケートにおける学生満足度（「東洋大学に満足していますか。」）の向上

目標：計画前の2019年度段階よりも肯定的回答割合が向上すること。

実績：大学全体

	2019年度 8,326名回答	2021年度 11,522名回答	2022年度 6,750名回答
1. 満足している	31.0%	34.4%	39.7%
2. やや満足している。	48.8%	47.5%	47.4%
3. あまり満足していない。	14.1%	13.9%	9.5%
4. 満足していない。	6.1%	4.2%	3.4%

※2020年度は新型コロナウイルス対策を目的とした学生調査に切り替えたため、大幅に設問変更したことにより、調査していない。

### (3) 教育 DX 推進基本計画 2「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」について

前述の「遠隔授業の高度化と質保証にかかわる将来構想検討会議」で検討された方針や計画概要の中心となっていたものが、この計画 2 となっている。

オンキャンパスつまり対面による授業と非対面によるオフキャンパスの正課内外の教育をいっそう柔軟にするものとして、次のような計画を検討した。

#### ■計画の概要

<カリキュラムレベル>

##### ①全キャンパス共通基盤教育授業

キャンパスごとに提供科目の差が課題になっていること、「東洋大学スタンダード 2021」として全学的共通目標を掲げていることを踏まえ、学生が幅広い学問分野の基盤教育を全キャンパスで履修できる環境を提供していく。

##### ②1・2 部間の合同メディア授業

白山キャンパスにおける第 2 部の授業運営の負担、第 1・2 部相互聴講科目開講では解決しきれない 1 日 2 時限しかない時間割枠による課題を解決していくため、1・2 部の合同メディア授業を展開していき、新たな学びの時間を創出し、第 1 部・第 2 部の学生のキャンパスライフをより豊かにしていく。

<科目レベル>

##### ①セッション科目<集中期間>のメディア授業

学生の学期期間中の過密履修の緩和、授業コマの調整、不合格科目のリカバリー（再履修）を早期に実現し、学修を遅延させない（学修意欲の低下抑止）ようにするため、春・夏季の休暇期間における集中授業のメディア授業の実施を実現する。

##### ②海外オンライン留学・オンラインインターンシップ

多様な学びの機会を提供していくため、海外大学のオンライン授業の履修を可能にする。またオンラインで行われるインターンシップに参加可能にする。既に行われている国際教育センターのオンライン交流プログラム、経済同友会によるオンラインインターンシップなどの経験を活かしていく。

##### ③語学科目などの習熟度別授業の運営

語学授業などの習熟度別クラスなどの設計において、基礎的な語学スキルの修得を中心に、学修プラットフォームを共通化する。オンデマンド型授業と同時双方向型授業を工夫して組み合わせながら、教員はフィードバックをメインに指導していくなど、新たな授業を創出していく。

##### ④基礎的科目（知識修得が主である科目）のオンデマンド型授業の実施

単位僅少者など、基礎科目の修得における学生のつまづきを解消するため、基礎的な授業科目について、オンデマンド型授業として予め収録して配信していく。繰り返し学習が可能になることで、教員は形成的評価やフィードバックに専念することにより、学習効果を高め

ることが期待できる。

### <コースレベル>

#### ①ブレンド型授業の実施

科目によっては、各回の授業ごとのメリハリをつけた授業運営が可能になることで、教育効果が高まる可能性がある。各回の授業ごとに、対面とメディア授業を織り交ぜて実施することができる仕組みを作る。

#### ②「知」の交流・創造がされる反転授業の実施

単に、授業時間中の発言や実践の場面を多くすることを目的にするのではなく、批判的思考力を身につけ、基盤的な知識に基づく「反論」により、他者との「知」の交流・創造がされるよう、また、探究する方法論を身につけ、対象の妥当性を批判的に見抜く力を鍛えることができるように、反転授業を積極的に用いていく。

また、コロナ禍で準備・対応してきたオンデマンド型授業の動画教材や資料などを各回の授業の予習・復習に役立てる工夫を行い、思考力やコミュニケーション力を身に着ける授業を展開する。

#### ③学外人材との共同授業実施

実務家や実社会で経験を積んでいる人材による教育機会の増加、オンラインを活用して教育効果の向上を諮る。研究所・企業その他学外の人材がゲスト講師として参画したり、大学院レベルでは他大との共同授業など実施したりする。

#### ④大学院科目や高学年科目の先行履修

学びの意欲が高い学生に対して、上位のレベルの授業を履修できるように、オンデマンド型授業の積極的な活用を図る。先行履修制度を柔軟に用いて、大学院進学に繋がる学びの機会拡大に繋げるなど、学修意欲の向上、キャリアパスの形成支援に繋げる。

#### ⑤形成的評価の実施

定期試験・レポートのみの成績評価に集中するような学修を解消するため、CLMSを活用し、学修ログをもとに、授業期間内の学生の学修行動の評価点を得点化し、学修行動の評価を授業期間内に把握するようにしていく。形成的評価をしやすくすることで、学生の学修プロセスを評価する教育を実現していく。

(計画のイメージ図)



■現在の取り組み状況

2023年度現在、2025年4月からスタートする改訂新カリキュラムにおいて、計画を進めることとしている。具体的には、全学カリキュラム委員会が中心となり、新しい中長期計画のひとつである「3万人の Learning Journey を支える新しい教育の姿（かたち）の創造」を踏まえ、キャンパス横断型の教育を目指し、総合知領域（全学基盤教育科目・全学共通教育科目）の授業運営モデルを確立するべく、全学的に取り組んでいる。

オンデマンド授業、同時双方向型の授業については、対面授業が再開して以降は減少しており、2023年度の全開講コースのうち3.64%程度（530コース）となっている。

●開講コース数

課程	コース数	前年度同時期比較	非対面コース数	非対面率
学部	12,437.5	+234.5	448	3.60%
大学院	2,106	+92	82	3.89%
合計	14,543.5	+326.5	530	3.64%

今後、知識獲得（または知識付与）型の授業を中心として、オンデマンド授業等の充実が期待される。この取り組みをすることにより、4キャンパス14学部の総合大学としてのメリットを生かし、多様な学問分野の知識を獲得することができる東洋大学としての教育価値をいっそう際立たせることが期待される。

【アウトプット指標】

- ・非対面単位認定科目（15週フルオンライン、授業内の一部での実施を含む）の開講状況  
 目標：知識獲得型授業科目の一部（基盤教育科目等）の5%  
 実績：2023年度現在 8.20% 250コース/3,046コース（基盤教育科目で計算）

【アウトカム指標】

- ・授業評価アンケート結果の経年比較  
 非対面単位認定科目（15週フルオンライン、授業内の一部での実施を含む）の授業のわかりやすさ、学習内容の理解、学習到達目標の達成などの経年比較（大学全体のみ）  
 目標：前年度比よりアップすること  
 実績：2023年度終了時点で比較結果が判明するため、現在のところ未判定（想定している比較項目のイメージ）



#### (4) 教育 DX 推進基本計画 3～5 について

今回の評価対象項目としないため、計画と取り組み状況の概要のみ記載する。

##### 計画 3：建学の精神の具現化を目的としたリカレント教育の世界展開（国内地域含む）

###### (計画概要)

本学の建学の精神に鑑み、高等教育機会の門戸拡大を目指すとともに、社会的な格差を超え、良質な授業をオンラインにて提供する。本学は 1999（平成 11）年から、全国どこへでも教員が無料で講義を届ける「講師派遣事業」を展開してきており、講師派遣は 2,000 回を超えている。これらの活動を全国により行き渡るようにするとともに、国境を越え、世界の市民の生活をより豊かなものにするよう、デジタルを活用したリカレント教育を行う。

併せて、ビジネス日本語の教育による海外のビジネス人材の育成、日本語教育の教員養成を通じた高度な日本語力の育成についても、デジタルを活用し、広く展開していく。

また、本学が取り組む社会課題解決に資する教育、経済発展力の向上に繋がる教育、アジアなどの福祉専門職の養成が必要な国・地域への貢献など、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の「誰一人取り残さない」教育を実現する。

これらの活動を通じて、社会人の学びなおし教育を促進するとともに、世界中に本学での学修経験者を増やすことで、創立者の建学の精神を世界に広めていく。

また、2018 年度から情報連携学部（INIAD）が取り組んでいる「Open IoT 人材育成プログラム」（文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成（EnPiT Pro）」に採択）のノウハウを生かし、オンラインとオフラインの学修の相補性の検証をもとに、社会人にとって、メリハリのある学修システムを構築する。

これらの活動は、民間とも協働しながら、持続可能なリカレント教育マネジメントを推進していく。

取り組み状況：既に社会貢献センターを中心とした教職協働によるワーキンググループのもと、オンラインリカレント教育の展開に係る構想をまとめ、現在、2024 年度以降の中長期計画において推進する予定である。なお、海外に向けたオンラインリカレント教育について、実証実験段階に入っている。

##### 計画 4：学生の成長を中心に据えた体系性ある FD・SD プログラムの構築と学内業務の断捨離

###### (計画概要)

###### <教員への ICT サポート体制の充実>

ICT 操作/教材作成支援スタッフ・部門の設置、教員への ICT に関する FD（セキュリティ・情報倫理含む）の実施、ICT サポートデスクの充実と授業運営に係るオンラインコンサルティングの実施、セキュリティ対策、情報倫理、著作権に関する FD・SD のプログラム開発に取り組む。

教材の管理については、民間と提携し、シェアードセンターを設け、動画作成及び授業ス

ライドの作成支援をサポートする。また、計画1に記載したCLMSを教員専用画面で活用し、教材のブラッシュアップをシェアードセンターに指示したり、過去に作成した教材についてもクラウド管理し、いつでも再利用できるように確認したりすることができるようにする。

#### <FD・SDプログラムの充実>

##### ・デジタル活用人材育成プログラム

本学教職員のデジタル活用人材（学内エバンジェリスト）を育成し、学内の授業及び大学運営におけるデジタル活用力を高度にしていく。その際、学習者本位の教育とは何か、学びの本質について理解するとともに、従来型の業務運営方法の見直しに係る企画・実行力の修得をする。

##### ・カリキュラムマネジメントプログラム

学生の学修ログ解析結果などを基に、本学のカリキュラム運営上の課題を把握するとともに、カリキュラムのデザインを推進できる能力を育成するための研修を提供する。共通科目の運営など、現場の課題として、予算、人員、教員間の役割、成績評価基準といったカリキュラム運営の問題が切実になってきていることから、それを組織的に支えていくための研修を構築する。また、学修成果の測定結果を活用し、FD・SDの充実に活用するための研修を行う。※他大学との共同運営を想定しながら、計画する。

##### ・授業デザインFDと専門人材によるコンサルティング

教員が授業手法を検討したり、指導・評価テクニックを身に着けたりすることができるよう、授業デザインFDの充実に図る。また、教員が授業に向き合う際、カリキュラム検討を組織的に行う際に生じる課題等に寄り添い、共に課題解決していく専門的な知識やスキルをもった、授業設計とITコンサルティングができる職員等を配置する。

##### ・TA/SAの研修プログラムの実施

授業補助を行う学生に対して、必要なスキルを体系的にかつ効率的に身につけることができるよう、オンライン授業プログラムにて実施する。また、教材作成支援や授業準備に係る運営について、学生SAを活用し、授業準備支援に学生が関与することで、一部のアルバイト時間を学修に変えるとともに、本学の建学の精神である「独立自活」の学修生活を可能にする。また、既述したシェアードセンターの取り組みにも活かしていく。

##### ・LA（ラーニングアシスタント）の新設

授業補助ではない、学修アシスタント<ピアサポート>の配置を行い、学生同士の相互育成を図る。

##### ・教学マネジメントFD/SDプログラムの開発

学長・副学長、学部長（学科長なども含む）向けのFD/SDプログラムを開発する。

#### <学内業務の断捨離>

オンライン会議の継続運営のみならず、オンラインツールを用いて、デジタルを活用した効率的な委員会・会議運営を実現する。また、議事メモの作成などは議論の履歴を音声データやコメント記述ログで記録することで、これまでの煩雑な作業のやり方を変えていく。

また、学生に提供する様々な資料や掲示についても、紙媒体で配付するのではなく、いつでも、どこでも情報にたどり着くことが出来るよう、周知が必要な情報はクラウドやWebに載せておく。

学内の研究予算の執行にあたり、研究計画・報告書については、ワンライティングで可能となるよう、また成果報告を研究者情報データベースの更新に活かすなど、効率的な運営に変えていき、教員の負担を減らすことで、授業や学生に向き合う時間を創出していく。

また、従来の「教員活動評価」を見直して、教員の研究時間や教育準備に要した時間の把握を行い、データを活用して、エフォート分析し、教員の研究時間の保証をどのようにしていくための客観的根拠に活用する。

これらの活動を通じて、「デジタル活用推進本部（仮称）」は、学内委員会や業務運営の効率がどの程度上がったのかの検証を行い、必要に応じて、委員会運営の統廃合や最適化を学長に助言していく。

なお、各部署の推進を担う人材は、前述のデジタル活用人材育成プログラム修了者を中心としていき、デジタルを活用して授業及び大学運営を高度に、しなやかなものにしていく組織に成長させていく。

取り組み状況：教育に係る ICT サポートについては、現在、高等教育推進センターにおいて、今後の 2025 カリキュラムの施行によるオンライン授業科目の充実に向けて、準備等の検討を開始している。なお、FD の体系化については、すでに高等教育推進センターにより、「FD/SD プログラムガイド」をまとめ、授業づくりワークショップ、コーチングスキル獲得の講座、その他授業運営に役立つオンライン動画コンテンツを提供している。

紹介 URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/effort/FDSD-program/>

計画5 「デジタル活用推進本部による推進体制と外部人材を採り入れた評価体制の構築」

こちらは、「(1) 計画策定の経緯と計画の概要について」で触れているため、省略する。

## まとめ

本報告書に記載した計画や取り組みのいずれも、教育研究活動の充実を図りながら、学生の質保証に取り組むものである。

もとより PDCA サイクルの循環の目的は何かと言えば、それは学生の成長のためである。また、成長した学生を社会に送り出し、その卒業生が充実した人生を送り、社会に貢献していくことが大学教育の成果である。

当たり前のことではあるが、そのことを改めて学内の構成員同士で共有し、学生の主体的な学習を促すために何ができるのかを考え、教職員もまた切磋琢磨し、中・長期の計画等のミッションやプランを達成していくことが必要である。

また、評価そのものを業務としてのみ捉え、その精緻化に向けた事務作業を重視し過ぎて過度な負担を増やすことになっては本末転倒である。学生の成長に繋がる活動として本当に必要なことは何か、それを見極めるための自己点検・評価活動は、それ自体が対話的な

なければならないと自覚している。途切れることなく繰り返される点検と改善のサイクルを、可能な限りわかりやすい形で社会に公表し、学生の成長を成果として発信することによって、本学の教育研究活動等の魅力をわかりやすく伝えたいと考える。その発信が新たな社会との連携を生み出し、本学のさらなる改革を促すことを願う。

学生の状況や声を適時、的確に把握することを質保証の根本に置き、コロナ禍で得た経験を活かし、学生の豊かな成長を保証するように各組織もまた成長し続けるようにしていきたい。組織の成長に不可欠とされる DX 推進においても、単なるデジタル化に陥ることのないよう、人間的な成長に必要な丁寧な対話を省かず、学生に向き合い学生と共に育ち続ける大学となるよう、労を惜しまずに取り組んでいく所存である。

以上

## 参考リンク集

1. 本学の内部質保証体制や自己点検・評価活動の状況

<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/quality-assurance/>

2. 東洋大学教育 DX 推進基本計画等

<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/vision/DX/>

3. 「東洋大学公式アプリ」に係る活動実績紹介ページ

<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/vision/DX/plan/action/>

4. 「東洋大学公式アプリ」公式 X (旧 Twitter) 「公式アプリ PR 隊」  
(学生たちによる運営)

<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/vision/DX/plan/action/apppr-sns/>

## 【外部評価報告書】

委員氏名 小舘 亮之

## 【評価1】 中期計画・3ポリシーを起点としたPDCAサイクル関連

・計画の方向性について、時代の要請を踏まえた大学の特色化につながるものか。

(総合知教育について)

社会課題の複雑化が進む現代において、従来の細分化された専門分野の知識だけで課題を解決することが困難な状況が到来している。大学においても、専門教育をより丁寧に行いつつ、新たな教養とされているデータサイエンスを含む基盤科目を全学的に提供するとともに、共通科目の充実が求められている。本計画は、こうした時代の要請を十分に踏まえ、かつ、現在5つのキャンパスに14学部、15研究科を有しており、広い学問領域が設置されている大学の実情に基づいて、全学基盤科目と全学共通科目、専門教育をICTも活用しつつ3層の学びとして全学的に整理することを目指している。この計画の方向性は、大学の特色化につながるものとして妥当であると評価できる。

(3ポリシーの妥当性検証のサイクルについて)

各学部学科、大学院の各専攻は3ポリシーをホームページで公表し、その周知に努めている。さらに、3ポリシーについては、全学共通の改訂方針が中期計画における全学的な教育目標である「東洋大学スタンダード2021」と明確に連関する形で定められ、この方針に基づいた検証が定期的に行われる計画となっており、妥当であると評価できる。

(効率的なPDCAサイクルの運営について)

従来、学部により異なっていたPDCAサイクルを標準化し、統一した進捗管理と評価の仕組みを導入し、効率改善を実現したことは、持続的な内部質保証の推進に極めて有効に資するものとして大いに評価できる。また、教学の全組織に対して年3回のヒアリングを実施していることは、前述の標準化でカバーされない範囲に対応すると共に、各組織における状況について直接的なコミュニケーションが行える仕組みの構築にも繋がるものとして、期待される。今後は、この新たなPDCAサイクルによって実際にどのような改善が行われていくか、注目される。

・より伸張を期待する点や今後の計画に関する助言

現在進められているPDCAサイクルでは、従来、個別に進められていたものの全体最適化を図る抜本的な改革にチャレンジするものであり、このサイクルの妥当性の評価をいかに行うのか注目される。また、同時に進められている教育DXを通して収集、蓄積されるさまざまなデータやその分析結果を3ポリシー検証のPDCAサイクルに反映していく方法を確立し、私立の総合大学における先駆的な事例となることが期待される。

## 【評価2】 教育DX関連

## 計画1「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」

・計画の方向性について、時代の要請を踏まえた大学の特色化につながるものか。

多くの大学においてコロナ禍でオンラインでの授業実施を余儀なくされた中で、これを教育DX推進の好機と捉え、「教育DX推進基本計画」を策定するとともに、全学的な推進体制を整備して事業を実施している点は、大学の特色化につながる可能性が高いものとして評価できる。とりわけ、学生の学修機会がオフキャンパスの場にも拡大しつつある現状に対応するとともに、建学の精神に通じる自己省察を促す設計になっていることは、大学の特徴を十分に反映している。

・2023年9月までの計画推進状況について、より伸張を期待する点や課題に関する助言

学生が大学生活を送る上で、日常的な学習関連のポータルとして位置付けた大学の公式アプリを設計、実装、配布し、既に全学生の96.9%にまで利用者が広がっており、計画は着実に進捗している。現在は、当初の利用環境整備が完了し、学生の利用状況を確認しながら、その効果検証をどのように行うべきかの検討を進めている状況である。本計画の先進性は、例えば図書館などの施設ごと、または就職活動期といった特定の時期に限定して利用履歴を蓄積する従来型の情報システムと大きく異なる点にあり、「データ利活用特区」の推進状況に見られるように、全学的かつ大学生活全期的にわたって利用者である学生中心の情報システムであり、それゆえ、「データ活用をもとにした支援策の充実のイメージ例」にも示されているような従来にはない新しい機能やサービスが提供されることが期待される。こうした新機能は当該システムの日常の利用を促進することにも寄与する可能性がある。報告書の30ページにあるように、「学生たちの興味関心を把握することに繋げ、データを利活用していく」方法については、一般的に学生が関心を持っているテーマに関連性の高いと推定される情報を優先的に表示する仕組みの実現に加えて、その一方で、例えばTOYO-Discoverにおいても学生たちがまだ経験したことのないテーマについての情報を表示するセレンディピティ（偶然）が提供される仕組みの提供についても検討されることを期待する。学生が自身の新たな興味関心や可能性についても認識するきっかけを提供できる可能性がある。

・進捗・達成目標などに関するご助言（ふさわしい目標かなどに関する助言）

教育情報の統合については計画通りに進んでいるように見受けられる。アウトプット指標として、利用学生数においては全学生の96.9%と一定の成果が得られているものの、成績の閲覧割合については目標の70%からはまだ遠い30%以下となっている。また、アウトカム指標として学生満足度があげられおり、「満足している」と回答している割合が確実に向上していることが確認されている点は評価できるものの、年度によって回答者数の変動が大きい。より多くの回答を集めるためにも、検討中の生成系AIの活用により、日常的な利用頻度を高める施策の早期実施が期待される。達成目標としては、特区的推進によって実現されたサービスや機能数や、業務における効率化（報告書28ページ）に関する項目の追加

も検討する価値がある。

### 【評価3】教育DX関連

計画2「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」

・計画の方向性について、時代の要請を踏まえた大学の特色化につながるものか。

大学低学年または高校時代にコロナ禍を経験した現在の大学生にとって、CLMSの活用やオンラインメディアを活用した学習環境が定着している。本計画はこうしたオフキャンパスでの学びを含めた学習を、カリキュラムレベル、科目レベル、さらにはコースレベルの3つのレベル別を実施項目とその内容を体系的に整理している。これらは、学習の効率化、学修意欲の向上、キャリア形成支援などの活動を柔軟に支援するものであり、かつ全学的に取り組まれていることから、大学の特色化につながる可能性があるものとして期待できる。

・2023年9月までの計画推進状況について、より伸張を期待する点や課題に関する助言

既にフルオンラインの科目が相当数実施されており、また、2025年度からの新カリキュラムに向けた準備が進められていることから、計画通りに進捗していると理解される。

オフキャンパスでの学びについて、学外機関が実施しているイベント等への参加やオンライン学習環境の利用ログデータとの連携機能があると、学生のオフキャンパスでの学習状況の把握や、これに基づいた一層の支援が実現できる可能性がある。

・進捗・達成目標などに関するご助言（ふさわしい目標かなどに関する助言）

アウトプット指標として掲げられている非対面単位認定科目については、既に5%という目標を上回る8.2%を達成していることから、目標値の上方修正についての検討が望まれる。アウトカム指標として、授業評価アンケート結果を参照することは妥当であるが、同時に対象授業の受講者の成績分布の経年変化も指標の一つになり得る。

【その他】上記項目以外でご意見がございましたら、ご記載ください。

## 【外部評価報告書】

委員氏名 穴戸 尚子

## 【評価1】中期計画・3ポリシーを起点としたPDCAサイクル関連

・計画の方向性について、時代の要請を踏まえた大学の特色化につながるものか。

(総合知教育について)

東洋大学建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」は、貴学が創立時よりまさに「総合知」の獲得を使命として人財育成に取り組んできたことを物語っており、新中期計画において掲げた「未来を哲学する、東洋大学」というスローガンは、内閣府の『知』が集い、新たな価値を創出する『知の活力』を生むこと」という、総合知の基本的な考え方を踏襲するものであると史料する。

総合知教育の編成に係る考え方、具体的方策として、基盤教育・他学部開放科目を全学共有化する一方で、専門教育は少人数科目を増やし、それらを融合させるという姿（かたち）は、教育効果をより一層高め、学生の成長を促すものであると考える。

東洋大学の強みである「哲学」を基盤とする教育、総合大学としての多様性を活かし、矢口学長の強いリーダーシップのもと、全学横断的な教育モデルに取り組まれていることは、「ウェルビーイングを実現する」という時代の要請を踏まえた大学の特色化にもつながっている。

(3ポリシーの妥当性検証のサイクルについて)

ディプロマ・ポリシーをはじめとする各ポリシーの改訂方針は、文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会が策定した「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」を踏まえつつ、建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」に基づいて策定された「東洋大学スタンダード 2021」を各学部の教育活動につなげていくよう導かれている。高等教育推進センターが作成した手引きをもとに、その方針が全学に行き届くように説明会の開催など工夫がなされ、一体感をもってポリシーの検証と改訂に取り組む体制が整っている。

(効率的なPDCAサイクルの運営について)

3ポリシーに基づくPDCAサイクルを循環させるために、中長期計画推進進捗管理シートを一本化、一体的に把握できるようにしたことは、年度ごと、組織ごとにまちまちであった従来の方式との比較において、より有効かつ効率的であり、さらに要点を抑えた記述によって全学での共有が容易となり、組織を越えたコミュニケーションの質が向上するものと思料する。

学長ヒアリングを年3回実施することにより、丁寧で確実な進捗状況の把握を行うとともに、学長と各組織長との対話の機会を構築するという点でも非常に望ましい体制である

と考える。

- ・より伸張を期待する点や今後の計画に関する助言

「哲学」と「多様性」を強みとする、独自性ある総合大学としてのブランド力をさらに高めていくために、各組織が共通の理念のもとで、さらに自律的な取り組みを進めることに期待したい。

## 【評価2】教育DX関連

計画1「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」

- ・計画の方向性について、時代の要請を踏まえた大学の特色化につながるものか。

入学から卒業までの「知」の旅(Learning Journey)において、建学の理念である哲学教育の第一歩としての「自己省察」を涵養する多様な仕組みを提供していることは、単なるデジタル化と一線を画す、東洋大学独自の教育DX推進計画であるといえる。

入学段階で自身の成長目標を描き、初年次には履修計画の適切な作成、入学ギャップ解消のためのサポートの提供といった仕組みが用意されている。2~3年次にはインターンシップや留学などで学生の成長を後押しし、4年次には自身の学びを振り返りポートフォリオ化することで、卒業論文、就職活動計画を具現化する。これらの取り組みでは、「知」の旅における学生との接点を増やすことが重視され、それぞれが自己を見つめるタイミングに合わせて、必要な情報を柔軟に提供することで、成長を促す機会とすることを目指している。

定点観測的ではなく、常時観測型で状況を把握し、教職員がその場その場で必要な判断を繰り返しながら最適な支援を考える体制の構築は非常に望ましいものであり、大学の自律的な組織風土にもつながると思料する。

また、データ利活用特区として、国際部、就職キャリア支援部、学生部においてスタートしたアクションは、いずれも社会変化や学生の関心の変化を踏まえ、時代の要請に合致した取り組みであり、より活発な活動として、質的・量的に向上していくことに期待したい。

- ・2023年9月までの計画推進状況について、より伸張を期待する点や課題に関する助言

計画1における目標達成状況について、アウトプット指標①「東洋大学公式アプリ利用学生数は、目標100%に対して実績96.3%とほぼ達成しているが、アウトプット指標②「成績ポジション」及び学習成果測定結果の閲覧割合は、目標70%に対して29.5%と未達であり、「学生が自身の強みや課題に向き合い、自己省察と成長につなげる機会である」というポジティブな側面を打ち出していくことによって、認知度、閲覧数を向上させることが望まれる。

アウトカム指標として掲げる学生満足度は年々向上し、約87%が大学に満足していると回答しているのは当該取り組みの成果であると思料するが、回答数の減少は、やや気になるところである。

・進捗・達成目標などに関するご助言（ふさわしい目標かなどに関する助言）

他の大学との差別化において、最も特徴的な取り組みが「My Journey」であると思われることから、「問いかけ」への回答数、学生が主体的・自律的に発信するコメント数、他者理解や他者共感を醸成する「場」としての活用件数などを今後の達成目標に加えることを検討する余地はあるかもしれない。

### 【評価3】教育DX関連

計画2「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」

・計画の方向性について、時代の要請を踏まえた大学の特色化につながるものか。

「対面か」「非対面か」の議論を越えて、「アフターコロナの教育はいかにあるべきか」という観点で、コロナ禍を教育改革の好機ととらえ、学修者本位の教育システムの構築を目的として、遠隔授業の高度化と質保証が検討されている。

なかでも、カリキュラムレベルにおける「全キャンパス共通基盤教育授業」は、どのキャンパスの学生も幅広い分野の基盤教育を同一レベルで受講できることから、総合知の獲得や人間力の育成が重視される時代の要請を踏まえたものであり、思い切った取り組みとして評価できる。

また、1・2部間の合同メディア授業は、第2部授業運営の負担軽減等の合理的背景に基づくものであるが、「2部生のキャンパスライフを変える可能性」に大いに着目するとともに、多様な学生が集う東洋大学に新たな学びや交流の機会が創出されることにも期待したい。

・2023年9月までの計画推進状況について、より伸張を期待する点や課題に関する助言

2025年からスタートする改訂新カリキュラムにおいて、全学カリキュラム委員会が中心となって、新しい中長期計画の基本方針のひとつである「3万人の Learning Journey を支える新しい教育の姿（かたち）の創造」を踏まえ、総合知領域の授業運営モデルを確立すべく取り組んでいる。

現時点では、アフターコロナにおける学生の要望や教員の方針等もあり、対面授業がメインとなっていることが推察されるが、4キャンパス14学部を擁する総合大学としての強みと多様性を活かして、建学の精神に基づいた教育理念を実現するために、基盤教育の全学共

有化の目的を共有し、強い意志でオフキャンパスの高度化を推進することが重要であると考える。

・進捗・達成目標などに関するご助言（ふさわしい目標かなどに関する助言）

アウトカム指標として「授業評価アンケート結果の経年比較する」とのことで、授業のわかりやすさ、学修内容の理解、学修到達目標の達成を経年比較することは興味深く、2023年度修了時点の比較結果に期待したい。

また、非対面授業における課題としてあげられている「学生へのフィードバック」について、なんらかの指標を設定するのも効果的ではないかと考える。

**【その他】** 上記項目以外でご意見がございましたら、ご記載ください。

出向元 JAL グループは、経営再建のために会長に就任した故・稲盛和夫氏の指導のもと、企業理念の冒頭に「全社員の物心両面の幸福を追求する」を掲げ、その結果が「お客さまへの最高のサービス」や「社会の進歩発展への貢献」につながる、としており、大学も企業も、その存在意義・目的を関係者全員で共有することが何より重要であると感じています。

「未来を哲学する、東洋大学」というスローガンのもと、「学生に向き合い、学生の成長とともに育ち続ける大学」を目指して、教育 DX 推進基本計画を全学で実行されることに、今後も大いに期待しています。